



五

稜

第35号 (平成7年度)

五稜中学校校歌

小島 昌平 作詩
酒井 武雄 作曲

J-108-112



一
ひんがしに 古城の
たなわに 五稜が丘に
昔人の 息吹に 満ちぬ
水た ふももたれ
新しき 光に 立ちて
大なる 力 伸ばさん

ニ
さくら花 しくしと 仰ぎ
友の 堅く 結びて
うち 鳥より 自主の 鐘の 音
ひびきに 耳を ともす 舟の
岸より 理想の 夜を
あふと ちの われら 守え くれ

行事から

～Part 1～



校内体育大会



身体測定



炊事遠足



教育実習



ボランティア清掃(亀田川)



校外清掃



ノーマリー教室



ノーマリー教室

中体連大会



中体連総合大会壮行式



陸上選抜選手



バスケット会場



中体連陸上大会



野球会場



野球会場



サッカー会場



応援風景

行事から

～Part 2～



球技大会（バレー）



球技大会（サッカー）



生徒会役員選挙



生徒会役員選挙



授業風景



研究授業



下校風景



環境壁新聞コンクール

文化祭



P T A バザー



P T A バザー



食事風景



食事風景



合唱コンクール



吹奏楽部演奏



学 年 館



家庭科作品展示

修学旅行



出発式



車内にて



中尊寺にて



ホテルにて



食事風景



げいび溪



青森駅



手づくり村

宿泊旅行



出発



開陽丸にて



中村家



入館式



食事風景



レクリエーション



メイズ



こんぶ館

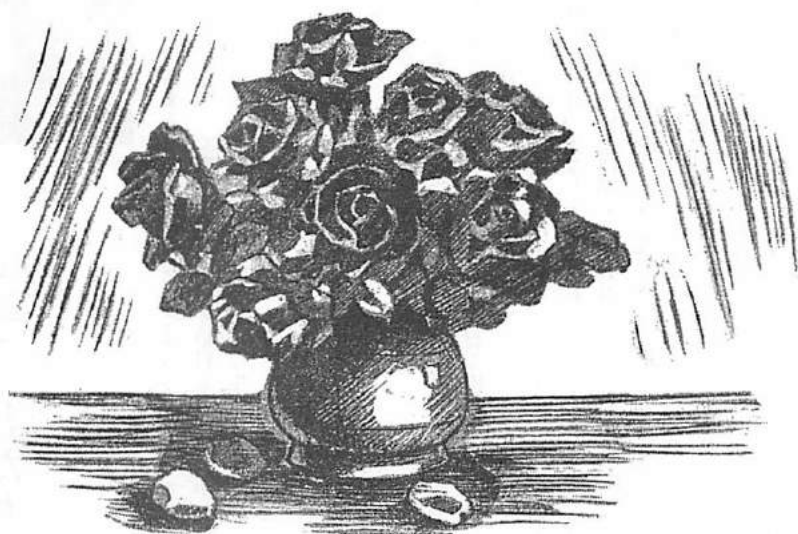
※平成7年度 五稜中教職員※



目 次

○グラビア写真

○巻 頭 詩	1
さて、君たちの未来図は？	2
時々味わう情けない自分.....	3
心	4
生徒会新総務～この一年にむけて～	5
一年をふりかえって～生徒会旧総務から～	7
生徒会一年の足跡	9
専門委員会活動報告	13
卒業生へ贈る言葉	17
部活動 一年間の活動記録	25
思い出をこのページに残して	33
生徒会テーマ&ポスター	42
修学旅行記	43
学級プロフィール ～1・2年～	50
宿泊研修	55
生徒会特集～ボランティア体験記～	57
文 苑	60
・中学校三年間を振りかえって	
・読書感想文	
・意見文	
・俳 句	
・短 歌	
・川 柳	
職員名簿	69
編集後記	70



心 魂

三年A組 齊藤 敦子

自分の心がつくり出してしまった
一枚のくもりガラスの向こうを
少女は泣きながら見つめている
見えなくなってしまった
明日への不安と
今までになくしてしまったものの大きさに
恐怖を抱いて

ガラスの奥にかくれているはずの
小さな光をみつけたそうと
ガラスに思いきり顔をよせた
これからみつかるかもしれない希望と
未来をつくるための手がかりと
自分自身しかつかむことのできない
大きな大きな夢をつかまえるために

少女は信じている
自分も

それらを見つけたせることを
ガラスから
少しのくもりもなくなることを



さて、君たちの未来図は？

学校長 近野 功

「ぼくは、将来えらい人になりたいとは思っていません。サラリーマンでいいし、どんな仕事でもいい。あまり責任をおっかぶされなくて、なるべく楽で、ひまが多く給料も多いほうがいい。人の上に立って指図するよりは、あんまり下っぱでないといいて、気楽に過ごせるのが最高だと思います。こんな生活ができるようにするために、仕事を选べるよう、受験勉強はやっぱりちゃんとやっておきたいと思う・・・」。

これは『私の夢』と題した、ある中学生の作文の一部分であるが、君がたちならばどんな夢を持つことができるだろうか。

中学生であればだれでもきつと、自由で豊かな私生活を志向しているに違いない。あるいは、もっと具体的な目標を持って努力している人もいるだろう。しかし、その一方では大きな不安を抱きつつ、自分の未来図にどんな色を塗ったならよいのかと、迷っているのが事実ではないだろうか。

社会がめまぐるしく変化していく現代は、はっきりした夢が描きにくい時代だと言われているのも確かである。

でも、君たちには若さにふさわしい強健な肉体としなやかな頭脳がある。それを土台にした、自分らしさを創り上げてみよう。

ただし、漫然（何となく）と過ごしていただけでは、いくら可能性があっても実現ができないだろう。本来、活動的でエネルギーのあることが、若さの特権なのだが、そのエネルギーをどこに生かして、どう費やしていくかが大切なのである。

「玉磨かざれば、光なし」のことわざどおり、人は努力しなければ、ただ馬齢を重ねる（無駄に年をとる）結果になってしまう。

人生の中で、成長発達がもっとも著しい年代にある君たちが、自分の未来に向かってしっかりと足取りで生きぬいていけるかどうか、重要な岐路（分かれ道）にあるといっても過言ではない。

冒頭にある作文のような考え方は、きつと賛否両意見に分かれるところだろう。人はそれぞれの考え方があって然りであるから・・・その中にある謙虚な心を持って「夢のある、自分らしい生き方」を見つけて欲しい。さらに、夢の実現に向けて、真剣に学びそしてひたむきに働き続けるよき実践者になることを、心から願っている。

未来は、ゆっくりと近づいて来る。そして、現在は足早に駆けて行く、という言葉がある。自分自身にとって少しでも納得のできる未来を迎えるために今、現在があることを、もう一度しっかりと考えるチャンスだと思うのだが、どうだろうか。



時々味わう情け無い自分

PTA会長 鈴木康二郎

昨年、会社の女の子から一月十五日の結婚式に、「長瀬剛の乾杯を 私に是非歌って欲しい。」と頼まれた。日頃、お酒を飲みに行った時は歌っている私を見聞きしての事だとは思いましたが、決って上手い歌ではない。女房も、「あなたは、歌が下手だから人前ではあまり歌わないように。」と、注意を受けているので、断ろうとしたのだが、下手でもかまわないとのことで、渋々引き受けました。そこで、一週間位前から家でテープを聞いて練習を行ったのですが、女房と長女は、「お父さん、本日に三百人も出席する祝賀会でそれを歌うの、絶対止めた方がいい。」と、声を揃えて言う始末でした。私自身も情け無く、どうして上手く歌えないのか、また、三百人の前で恥をかくことを想像し、歌いたくない気持ちになりました。そして、当日は聞き直って、思い切り恥をかく決心で会場へ向いました。祝賀会は、順調に進みいよいよカラオケが始まりました。一人目、二人目、三人目とそれぞれ上手に素敵に歌っています。そんな中、私の心は下手に決まっている歌を歌うのに、ドキドキもしないで平然としている。その自分の心の中を読んでいるうちに、七人が歌い終わり、司会の人、「本日の最後に、新婦の会社の先輩にあたります鈴木様に乾杯を歌ってもらいましょう。」と紹介された。まさか、私が取りになるとは思っていなかったで、びっくりしたまま段上へ上がり、歌う前に堂々と、「本日は御両家の皆様本当にお目出とうございます。」とところで、音痴な私がどうして取りなのか分かりませんが、一週間練習いたしました。一生懸命歌わせてもらいます。」と素直にあいさつした所、温かい拍手が起きました。曲が流れ出し、歌が始まりすぐに音程を外す、あちこちで笑いが起きたが、さわがしかった会場が静かになり、みんなが聞いてくれている実感を感じながら、一番が終わった所、拍手喝采、さらに、会社の女の子五十六人が一人づつ花を持って私の所へ、心を打った応援を得て、二番は気持ち良く思い切って歌い終り、私より先に歌った誰よりも大きい三百人の拍手に心から頭を下げました。

さて、私の好きな言葉に、「人生とは、多くの人に借りを作り、多くの人にその借りを返していくこと。」というのがあります。この借りを返そうとして、渋々引き受けた祝賀会での歌で、逆に、出席者三百人の温かい拍手に、花を来れた女の子に、借りを作ってしまった。これと同様に、娘がお世話になっている学校に、また、数多くの人達に借りを作ってきた私が、君達に、学校に少しでもお役に立ち、人に借りを返させることが出来ると引き受けたPTA会長も、君達、役員の皆様、会員の方々、学校に借りを返すより借りを作った気がします。君達もこの借りを、両親、兄弟、先生、友だち、回りの人達から数多く受けています。この自覚を持てる事、持っている事が、生きていく上で大きな力になると信じます。

心



教頭 山岸 秀一

六三〇〇人を越す犠牲者を出した阪神大震災から一年が過ぎ平成八年一月一七日、犠牲者への追悼式が行われた。兵庫県知事が再生への誓いとこれまで寄せられた支援やお見舞い感謝の気持ちで代表して感謝の気持ちを伝えた。その中で被災した神戸の小学生が「涙はうれしい時にも流れることを知りました。優しいいっぱいありがとう」と全国のボランティアの方々を送ったメッセージが添えられ、苦難を乗り越える強さと人の心の温もりに対する素直な感謝の気持ちが逆に心の琴線にふれた。

今また、かつて、人気ドラマとして視聴率が高かった「3年B組金八先生」が復活し、多くのファンを引きつけ高い視聴率を上げているという。

主人公金八先生を演じる武田鉄矢さんが、以前対談の中で好きな字として、「優」という字を上げていました。「優」という字は人の横に憂いが立つと書きます。憂いは人の心の悲しみ苦しみ、悩みなどを意味しています。また、「優」という字はやさしい、すぐれる、まさと読みます。「優」すなわち憂いを心にもっている人は他の人の心の痛み（悲しみ、苦しみ、悩み等）が分かりそのような人は優しく、優れていて、優っている人のように思えます。

「3年B組金八先生」のドラマを支えているのは金八先生と生徒、そしてドラマに出てくる人たちの葛藤を通して、そこに「優」を感じさせるものがあるからではないでしょうか。

ある雑誌のコラムの中で、「強さ」とくましさは生きる力。優しくなければ生きる資格がない」という言葉がありました。

人は自分の心の奥に強さとたくましさをもっていなければ、自分を鍛え、自分を成長させることはできません。また、苦しさにつづかつた時、耐えることができず自分を見失ってしまいます。

さらに、心の奥に強さをもつと同時に、他の人への優しさがなければなりません。いじめ問題が社会的問題になっている昨今、その解決が急がれている中で、一人一人の心の中に人としての「優しさ」を取り戻したいものです。優しさは、その人の心になれることであり、人の気持ちができることです。優しい人は、心の中に多くの人の心を持つて人であると思います。

ところで、PTAの方々は、皆さんが学習しやすい豊かな環境を作るために応援してくれています。特に、二学期以降毎日のように学校にきて、相談等を通して豊かな心の形成と行動のあり方の支えになってくれました。大きな励ましとなった人も多かったものと思います。それに対する感謝の心はどうでしょうか。

人は心で生きるために、春のような温かい心、夏のように燃える心、秋のように澄んだ心、冬のような厳しい心をもつ時々に応じて、発揮できるように自分を磨いています。皆さんの心の世界がさらに深まり、広がっていくことを期待します。

生徒会新総務

～この一年にむけて～

会 計		書 記		副会長		会長
野 田	池 田	長 谷	下 田	高 田	亀 井	宮 腰
有希子	慎太郎	拓	倫子	幸 昌	美 佳	寛 之

◇後期生徒会総務 一覧◇



会長としてやっていくこと

会 長 宮 腰 寛 之

僕が生徒会会長に任命されてから、もう数ヶ月が経ちました。これまでいろいろな仕事に取り組んできました。おもしろそうな仕事もやってみるとなかなか大変なもので、少しのことに何日もかかってしまうことがたくさんありました。しかし、大変だけど、そのなかで生徒会総務のなかに「連帯感」が生まれてきたような気がします。ですから、とても楽しいです。この「連帯感」が全校に広まっていけば、学校生活はとても明るく楽しいものになって行くと思います。そして今、全国的に問題になっている「いじめ」のことも、「連帯感」が広まっていけば、無くなっていくと思います。この問題は、僕達がこれから話し合って解決していかなければならない問題だと思っています。非常に難しい問題ではありますが、これを解決にむかってがんばれるか、がんばれないかは、僕の生徒会会長としての力量が問われてくると思います。

今までの仕事では、まだまだ会長としての自覚が足りないせいかちょっとバツとしなかったのですが、これからはもっと充実したものにしていきたいと思っています。特に「GORYO NOTICE BOARD(五稜掲示板)」は、皆さんにいろいろなことを呼びかけたりするのにピッタリのもので、先程申し上げた「いじめ」の問題なんかをとりあげて、皆さんに呼びかけていけたらよいと思います。

これからまだ任期は二分の一くらい残っています。そして、全力を尽くしてがんばっていきます。皆さんにも、生徒会をいろんな面から支えてもらいたいと思うので、どうぞよろしく願います。

よりよい学校生活に向けて 副会長 亀井 美佳

生徒会のメンバーが新しくなって数ヶ月はたちました。私が生徒会に入るの二度目になるので、どのような仕事をするのかわからないということは減りましたが、だからといって気を抜かず手早く仕事を行い、時間を作って昨年やり残した校則の見直しや昼休みの体育館解放等という新しい仕事を少しずつ進めていきたいと思っています。しかし、このような大きな仕事をするにはみなさんの力なしではできません。ですからみなさん御協力お願いします。

生徒会の一員となって 副会長 高田 幸昌

生徒会の一員となって、はや数ヶ月がたちました。始めのころはなにをしてよいのかわからないということがたくさんありましたが、他の生徒会の皆さんにたずねてもらったおかげで今まで何事もなく活動してこれました。これから新しい課題に自ら積極的に取り組み、すばらしい学校環境をみなさんと共にきずきあげていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

2度目の生徒会 書記 下田 倫子

私が新生徒会総務の一員となって何ヶ月かがたちました。私は前回も生徒会書記をやっていたのでこれで2度目になります。私の書記としての仕事はノートを取るぐらいですがこの仕事を責任を持ってやっていきたいと思っています。前回の生徒会のあいさつ運動では、あまり立つことができず反省しています。今回はどの活動においても自分で、できるだけのことはやり、もっと積極的に取り組んでいきたいと思っています。これからも前回の経験をいかし他の生徒会のみんなと協力し、よりよい五稜中を作っていきたいと思っています。

これからの抱負 書記 長谷 拓

僕の生徒会に入ってから抱負は、選挙のときに言ったように、数多くある校則を少しでも減らすことを先に達成し、次にくつや、金銭、家のかきなどがぬすまれたりすることがあるので、このようなことがない学校にしていきたいと思っています。それと僕は、はっきり言って成績も良くないし、生活態度も、言葉づかいもよくないけれど、自分なりに精一ぱいがんばって少しでもこの五稜中学校を変えられるに努力していきたいと思っています。

目標!! 会計 池田慎太郎

生徒会総務が変わってから数ヶ月、生徒会も2回目となり仕事もなにをすればいいかもわかってきたので、前回やることのできなかった校則の改善などをすすめていきたいと思っています。

いままでの生徒会副会長をやってきた経験をいかして、よりよい学校をつくってために残りの任期、努力してきたいと思っていますのでご協力のほどお願いします。

生徒会の感想とこれからの抱負 会計 野田有希子

私は今回信任投票で当選した野田です。私はこれまで生徒会なんか他の生徒とは違う感じがしたけどぜんぜんそんなことがないことがわかった。あとやっぱり小学校の児童会とはぜんぜん違うなと思った。やり方が違った。児童会には、先生達の意見が多いけど生徒会は生徒が中心になっている。私はすごいと思う。だから私はこの後の残りの任期もがんばって務めようと思う。とてつもなく立派な生徒会を作っていきたいと思う。

一年をふりかえって

=生徒会旧総務から=

会 計		書 記		副 会 長		会 長
亀井美佳	佐藤祥一	下田倫子	葛葉洋平	池田慎太郎	斉藤敦子	佐藤裕介

◇旧生徒会総務 一覧◇



生徒会長としてのこの一年

会長 佐藤 裕介

十一月。月日が流れるのはとても早いもので、終任式を迎え無事生徒会長としての任期を終えることができました。この一年間、ふり返ればいろいろな事がありました。私が一番感じとったのは、「自分が口で言った事を実行することはいかに難しいか」という事です。私は『一人一人が五稜三訓を考え直し、実践化させる』ということを目標に生徒会をすすめてきました。結果は、自分が思ったよりもできず、自分の無力さを思い知らされました。

自分が今までの一年間行ってきたことは、大きく回り道をしたり時々、無駄になることも多くありましたが、一年間自分なりに頑張った、よい経験をもたせたと思います。始めのうちは、慣れない仕事、例えば、全校集会の挨拶もそうです。人前に立ち、一言挨拶をする。一見、簡単にみえますが慣れない時ではこの簡単なことですら、とても大変に思っていました。そんな私が、今まで頑張ったのは、他の生徒会役員がいたからです。挨拶の時、例えば言葉を間違えたり、詰まったりした時でも「大丈夫、よかったよ」というもだれかが声をかけてくれました。何気ないこの一言ですが、私にとっては、精神的にも大きな助けで、何度も落ち込んだ時は必ず、この一言が私を支えてくれました。

将来、私がどのように変わるのかはわかりませんが、この五稜中でえた経験は大きなプラスとなり、平凡としていた私を大きく変えたと思います。最後になりましたが、いつも陰で支えてくれた生徒会役員と生徒の皆さん、ならびに先生方、本当にありがとうございます。心から感謝します。

副会長としての一年間

副会長 齊藤 敦子

副会長としての責任を持つことができたか。と聞かれたら、自信を持って「はい」と言うことはできません。努力はしたのですが、失敗の数があまりにも多すぎてみんなに迷惑をかけてしまったというのが一番大きな原因です。でも、先生や他の役員がみんなとてもいい人達ばかりだったので、楽しく仕事をすることができました。ありがとうございました。

任期を終えて

副会長 池田慎太郎

一年間生徒会副会長として文化祭をはじめとするさまざまな全校行事に携わってきましたが、任期が終わり今こうして一年間を振り返って見ると、何となく活動してきたような気がしてなりません。それというのも、改善しようと思っていたことがなかなかうまくいかず、目に見える成果をあげられなかったからです。

他の六人の総務の人達には迷惑をかけていましたが、それをバネにしてこれから活動したいと思います。ありがとうございました。

一年をふり返って

書記 葛葉 洋平

一年間 生徒会の書記としていろいろな行事に参加し、さまざまな活動をしてきましたが、自分ではまだものたりなかったと思っています。なぜならば、まだ解決して問題がたくさんあります。

たとえば、校則の問題やくつの印、ほか、生徒手帳などあります。これらの問題は、新生徒会の皆さんに解決してもらいたいと思います。一年間、他の生徒会の皆さんに迷惑をかけてきましたが、楽しく生徒会を活動できてよかったと思います。

生徒会総務としての一年

書記 下田 倫子

私はこの一年間自分にとってとてもいい経験をしました。生徒会に入ってから間もない時はいつも緊張していたり、ギクシャクしていたり多少失敗したり、先輩方に迷惑かけたりもしました。でも、生徒会の仕事は大変な仕事もありますがやりがいのある仕事でとても楽しい1年になりました。お世話になった先輩方、一年間本当にありがとうございました。

一年を振り返って

会計 佐藤 祥一

一年間生徒会の仕事をし、後悔したことは多少ありましたが、それ以上に得たものの方が多かったです。例えば、二年生の亀井さんと下田さんの二人の仕事のやり方や、副会長のものの考え方など自分とは異なる利点を得ることができました。委員会に遅刻や、水曜日の集会に欠席することが時々あり、生徒会のメンバーに迷惑をかけたこともありましたが、新生徒会役員には、より良い学校にするように努力してもらいたいと思います。

一年を振り返って

会計 亀井 美佳

この一年間の仕事を振り返ってまず思うことは、本当に貴重な経験だったということです。生徒会に入ることによってとてもよい先輩や同学年の人、いろいろな仕事に出会うことができました。自分としては、一生懸命仕事をしたつもりですが、やはりやり残した仕事がたくさんあるので、この反省点をこれからの仕事に生かそうと思います。最後になりましたが指導をして下さった先生方、そして協力して下さいましたみなさんありがとうございました。

平成
7年度

生徒会一年の足跡



平成七年度

生徒会のあゆみ

一年間というと、長く感じてしまいましたが
すごしていくと一年間とは、あっという間で
す。この一年間みなさんは、どのように過
し、どう成長したでしょうか。
成長していく中で、みなさんの思い出にの
こる、生徒会行事。
もう一度ここで振り返ってみることにしまし
う。

四月

入学式・第一学期始業式

小学生から、中学生へと変わり、中
学校生活への新しいステップを踏みだ
した一年生。在校生も一つ大人になり
新たな第一歩を踏み出した日でした。

新入生歓迎会

この日、始めて全学年が顔をあわせ
ました。生徒会の仕組みや、部活動紹
介などをしました。部活動紹介では、
どの部も熱心に入部を勧め、いろい
ろなことをして部活動のことを一生懸命
紹介していました。

任命式（専門委員会）

各委員会の代表が、任命書を受け取
り、新しく迎えた一年生と共に、専門
委員会がスタートしました。

五月

修学旅行

中学校生活の中で大きな行事の一つ
です。皆さんの心の中にはたくさんの
思い出ができたでしょう。

生徒総会

各専門委員長の説明も、各学級の質問もとても立派で、内容のある会になりました。

六月

第三十五回校内体育大会

みなさん、各競技に一生懸命がんばっていました。心をひとつにして応援していたクラスもあり、とてもすばらしい体育大会でした。

宿泊研修

二年生の大きな行事の一つです。自主研修では、みなさん細かい所まできちんと調べていたようです。

中体連陸上競技大会壮行式・応援

選ばれた選手は、五稜中の代表としての誇りを持ちとても気合が入っていました。



中体連陸上競技大会

短い期間の練習でしたが、みなさん力を出しきり、とてもすばらしい大会でした。

七月

中体連総合大会壮行式・応援

どの部も充分気合が入っており、闘志を態度でみせてくれました。

中体連総合大会

この日のために、どの部も一生懸命練習してきました。今までの練習の成果を選手一人一人が十分に発揮し、がんばっていました。

亀田川清掃

朝、早起きをして、みんながんばって亀田川周辺のゴミ拾いをしました。

第一学期終業式

待ちに待った夏休み。みなさんほどのように過ごしましたか。

八月

第二学期始業式

夏休みも終わり、新たな気持ちでスタートしました。

ノーマリ教室

今の社会の福祉について改めて考えることができました。当日は、盲導犬も二頭来しました。

文化祭実行委員会発足

生徒の代表が文化祭へ向けて活動開始、文化祭を成功させようと皆、真剣に取り組んでいました。

九月



中体連水泳大会

すばらしい記録を持った選手がこの大会に出場しました。

十月

第三十五回文化祭

時間が短縮されたため、壁新聞や弁論がなくなってしまうましたが、毎日残って準備してきたかいがあつて大成功でした。

球技大会

どのクラスも団結力があり、体育の時間に練習してきた成果があがっていたようです。

生徒会役員選挙・立会演説会

新しく当選したみなさん、これから自分のやりたいことを積極的に活動してください。

生徒会役員認証式

旧総務のみなさんお疲れ様でした。
新総務のみなさん、がんばってください。

十一月

生徒会ブロック会議

学校生活をよりよいものにするために
生徒会代表が他校と活発的に話し合
いました。

十二月

生徒会誌編集委員会発足

編集委員が生徒会誌の作成を始めま
した。

第二学期終業式

長かった一学期が終わりました。



一月

第三学期始業式

新しい年になり、新たな気持ちで頑
張りました。

三月

卒業式

三年生は卒業。そして新たな旅立ち
をしました。

修了式

こうして一年が終わり、また、新し
いスタートが待っています。

今年も色々な行事があり、様々な経験をし
ました。この経験を生かし、来年もがんばり
ましょう。

今年の生徒会のテーマは

“TRY OUR DREAM”

でした。

専 門 委 員 会

活動報告



「はじめの一步」

代議員会

「代議員」は『クラスの代表者』です。
「常にみんなの先頭に立って行動していかなければならない。」とわたしは頭の中でそう思いました。予想以上に責任重大で、正直に言って選ばれた時は困りました。しかし、一歩、踏み出して挑戦してみました。今年一年間、代議員を任されて本当に良かったと思います。特に、「良かった」と感じるのは、あいさつ運動で「おはようございます。」と呼びかけると相手もこたえてくれたことです。中には無視する人もあるので、その分だけうれしさが伝わってくるものでした。たぶん、私は「あいさつ」の大切さを改めて気付くことができたと思います。

最後に、代議員という仕事は少し大変かもしれないませんが、中学校生活の中での良い思い出経験の一つとなること間違いなしです。新しい自分に出会うために、色々なことを経験することは必要だと思います。

みなさんも「はじめの一步」を踏み出してみては、どうでしょうか。

(柳町 陽子 記)

「the 学習委員」

学習委員会

我々、学習委員の仕事は、朝自習の作成、テスト予想問題の作成、それに教科連絡でした。朝自習の作成テスト予想問題の作成は、だいたいできたけど、忘れ物はいつも教科連絡をしてもあまりなくなりました。いくら僕たちががんばっても、だれかがかならず忘れてくるようになっていきます。これは何故か僕にはわかりません。でもこれから学習委員に入ってくる後輩には忘れ物がなくなるように徹底的にやってほしいと思います。

他の仕事については、反省が少しひつようだと思いました。テスト予想問題の作成を、つくらなかった事がありました。

このように思ってみると、何故か、反省ばかり浮かんできます。これは僕が学習委員を真面目にやらなかったからです。これらの事は委員長に責任があるので、深く反省しております。今後この委員になった生徒はこの、学校のために、できるだけがんばってほしいと思います。

五稜中学校をもっといい学校にしよう。

(小泉 裕二 記)

僕からみた生活委員会

生活委員会

生活委員は、他の委員会とくらべて、比較的、忙しかったと思います。その仕事とは、週番活動、チャイム席を守っていない人の注意、不要物検査、服装・頭髮検査、整列指導、そのほか、週番長は、五分前登校、遅刻者の記録、ざっとあげただけでもこんなにあります。それも、特別な時だけではなく、毎日の学校生活の中で行っているのです。やりがいのある仕事の反面、大変な仕事でもあったと思います。だけど、生活委員、全員が努力してくれたおかげで、大変、楽に仕事ができたと気がします。

僕は三年生になって、生活委員長をやりました。委員長としての仕事は、生徒総会や、文化祭での委員会のあいさつぐらいだったと思います。個人的に文化祭の食堂の手伝いが増えてよかったです。委員長としての仕事は少なかつたけど貴重な経験でした。

在校生のみなさん、今以上、努力できる所は努力し、よりよい学校を作ってください。週番の引き継ぎなど、めんどくさいからといって、サボってはいけませんよ。(千田智弘記)

仕事が少ないかった

保体委員会

前期の保体委員は、あまり仕事がありませんでした。大きな仕事といえば、体育大会でした。この体育大会での保体委員の仕事はとても沢山あって、すごいそがしかったです。

その沢山あった仕事の内容は、まず、大会の種目の内容とみんなに知らせることから始まりました。それから、個人の出場種目を決めるために、学級会を開いたり、今年からはじまった全員リレーの走る順番を決めるため、放課後、暗くなるまで残って相談をしました。大会当日は、開会式での選手宣誓や応援席でみんなをまとめました。このように、大会での保体委員の仕事は他の委員より多くて、いそがしかったけど、一人、一人の心に残る体育大会ができるように、がんばりました。

結局、体育大会が終わると、ほとんど仕事が無かったけど、私は保体委員になってよかったと思います。

三年間給食委員を努めて

給食委員会

私は、給食委員を三年間やり、色々な経験をしました。一年生の時は、給食室の献立表に献立を書いたり、白衣の点検をしたり、ナプキン調べ、給食の挨拶をしたりしました。委員会に入ったのは、初めてだったので、失敗ばかり。

二年生の時は、委員の仕事もだいぶ慣れ、スムーズに出来るようになりました。

三年生に給食委員長になって、文化祭で、牛乳パックの仮装をして、注意事項を説明する時、緊張して頭の中が、真っ白くなり、心臓もドキドキして、一部説明不足で少し失敗しました。

食堂では、ラーメンを選び、ウェイトレスになったような気分で、とても楽しかったです。三年間、委員を努めて沢山の人と出会い、また沢山の事を学びました。

最後に、村井先生色々教えていただきありがとうございました。

(小林あゆみ 記)

(阿部 夏乃 記)

「協力」が必要

整美委員会

整美委員会に初めて入ったのにもかかわらず、委員長という重大な仕事をまかされた時は、とまどいと不安で胸がいっぱいでした。

そんな私を支えてくれたのは整美委員の人たちでした。校外清掃、花だんづくり、文化祭の準備など、どれも大変な仕事ばかりなのに、責任をもってしっかりやってくれました。そして整美委員会を支えてくれたのは、職員や友達でした。花だんづくりなんて、手がよくれるから嫌だという気持ち、心の中のことかにあったはずなのに、笑顔で手伝ってくれました。

整美委員になって、本当の意味での「協力」という言葉をおしえられた気がします。いつか、整美委員会の存在がどの委員会よりも大きくなった時、五校中はすばらしい学校になると思います。なぜなら、整美委員会の仕事はたくさんの人たちの協力があってこそ達成できる仕事だからです。

在校生のみなさん、少しでも早く整美委員会の存在を大きくしてくださいね。

(米田 美保 記)

ザ・文化委員会

文化委員会

僕が文化委員会に入ったわけは、文化祭のかそをやりたかったためです。そのために委員長に立候補して委員長になりました。なぜ文化委員を選んだかという専門委員会の中で簡単な仕事しかない委員会だと思ったからです。しかし、自分が思ってたほど簡単な仕事ではなかったのです。一番嫌だった仕事は掲示物のはりかえです。理由は、せっかくはったのにすぐに破いたり、切ったり、持てて捨てたりする悪い子ちゃんがいるからです。はる側にとってはとても悲しい事です。次に学級新聞でした。これは、ほとんどのクラスが出していませんでした。これからの文化委員の人はちゃんと出してください。それと、なぜか毎年文化委員会は暗いんです。意見を言ってもらっても、モゴモゴして何を言っているのかわかりません。とにかくこういう委員会でも良い点を持つて委員なんです。暗いけどこれから輝け、今を生きろんだ／＼ザ・文化委員会！

(澤谷 啓行 記)

図書委員を終えて

図書委員会

ぼくは、三年の前期にはじめて図書委員をやりました。最初のころは、図書当番などの仕事もしっかりやっていたんですが、やっぱりなれてないせいか、忘れてしまったりして、仕事をやらなかった時も数多くありました。図書委員を終えて一番反省に残ることは、とにかく、図書室がうるさいことです。本を読むための図書室がなぜか、さわぐための図書室になっていることは、悲しいことです。一体何のために図書室に来てるのでしょうか。本を読みに来たり、本を借りに来る人は少数で、あとの人はみんなさわぎに来ています。(ぼくもあまりえらそうなことは言えませんが) この問題を解決するために後輩のみなさん、がんばって下さい。

「はぁ・・・、タウンページ作るのに大変だったなぁ・・・。」

(保科 光佑 記)

放送室は物置じゃありません。

放送局

一学期——快調に活動していた放送が、文化祭後ビタリと中止。「なぜだーっ」思い吉田先生に問う。「ああ、文化祭で使った器具が置いてあるから使えないんだよ。」——びびきっ。

二学期——頼むからもう放送中止なんて・・・という思いは、はかなくも消え失せる。——某日。放送室のドアを開けようとするが開かない。いつもなら後ろに引くと開くんけど、前へ押そうと、横に引いても開かない。「鍵は？」と吉田先生に聞くと無情な返事が返ってくる。「なくした。」——びびきっ。

けっきょく、しばらく「開かずの物置」になったのでした。

後期の委員会役員が決まったと同時に、再び放送が始まりました。放送日が週4回から週2回へ。器具はぼろいまま。夏蒸し暑く、冬肌寒い放送室のおもむきは変わっていませんでした。

「もうトラブルはゴメンです。」

昨年と比べて——局員がめっちゃ増えて、なおかつ放送日が減った——つまり、私達放送局員はかなりのリスクを背負ってしまいました。1回分の放送でさえ責任重大。「全員テーブ忘れた」なんていったところで全校生徒が許してくれるわけじゃないのだから。最後に。一・二年の放送局員へ。「いざという時に、全く役に立てなかった局長でしたが、ありがとうございます。」三年生の放送局員へ。「今まで本当にごころうさまでした。」

(高松 啓記)



卒業生へ贈る言葉



本物のたくましさを

A組担任 笹谷 巖先生

3年A組35名の諸君、卒業本当におめでとう。
心から拍手をおくります。

君達を送るにあたり、この一年間、はたして君達に十分なことをどれだれてやれたらうかと、反省し、心苦しく思っています。この一年間の間にもみんなは確実に、たくましくなったように思う。しかし、今の、たくましさは、本当のものではなく、衣を着た、たくましさにすぎないのです。

これからが本当の意味での「本物のたくましさ」を身につけていく道がはじまるのです。その過程には、苦しいこと、悲しいこと、つらいこと、楽しいことと沢山のハードルが待ち受けています。その障害物を一つ一つ耐えて乗り越えていくたびに、本物のたくましさ

がみんなの心の中に育っていくものなのです。これからはじまろうとしている人生の道を、休むことなく歩むことから始め、他人の道に心うばわれることなく、自分から進んで歩まなければならないのです。例えば、それが遠い道であっても、勇気・忍耐・努力・をもつて歩み続けてほしいと強く願うものです。

かならず、又どこかで出会うことがあるでしょう。先生はそれをお待ちにしています。

その出合いのときどきで、どれほど人間として、成長したかを知するために……。



チャンスをつかめ

B組担任 山口 哲也先生

長い人生の中で、人には必ず自分を生かす、チャンスがあると思います。自然に巡り会うもの、自分で見つけだすもの、それは人によって異なります。皆さんは、いろんな可能性を秘めています。自分では気づかずに、自分の隠れた能力を発揮する事なく、時が過ぎてしまう事が多いと思います。自分の可能性を生かすためには、周囲の人の助言や援助も大切ですが、最終的には自分自身だと思います。自分自身に意欲がないと、能力は生きてきません。とにかく、いろんなことに挑戦してほしいと思います。皆さんが、三年間過ごした学校生活の中にも、自分の能力を生かした場面が沢山あったと思います。特に、体育大会や文化祭では、それぞれの人が、自分の能力を最大限に発揮し、活躍したと思います。勝敗は別として、頑張った後の充実感、日頃の努力と頑張る意欲がなければ、味わうことのできないものだと思います。自分で自信があることには、積極的に取り組み、自信のないことにも挑戦する気持ちを持つことが、これからの人生には必要になってくると思います。なぜならば、社会人になると、できないとか、やりたくないなどということが、通用しなくなるからです。皆さんは、これから中学校を卒業し、それぞれの道を進む訳ですが、自分の能力を発揮するために、また、隠れた能力を探し出すためにも、自分の可能性を求めて、できるだけ多くのチャンスをつかみ、チャレンジして、多くのことに自信が持てるように努力してほしいと思います。そして、自分自身のチャンピオンになってほしいと思います。頑張ってください。祝・卒業。



卒業おめでとう

C組担任 内木 竜先生

「学校の試験には、二つの特徴がある。答えの無い問題がないこととやさしい問題を解いた方が有利ということだ。しかし、世の中の問題の九割は答えがあるか、無いかわからない。チャレンジ精神とは、答えの有無がわからぬ難問に取り組むことだ。」

「十人十色」と言われるように、人にはさまざまな長所・短所があり、また心身ともに「強い」面、「弱い」面を持ち合わせています。中学校卒業というハードルを越え、一步「大人」への階段を踏み出す君たちを、これからも様々な「難問」が待ち受けています。しかし、その「難問」に直面した時、成功・失敗を問わず向き合い、立ち向かうことにより、自分自身を見つめ直し、成長することができるとです。卒業生と共に生活した「三年間」を通じ、私自身が改めて学んだことでもあります。

冒頭に掲げた言葉は、堺屋太一氏（評論家・作家）の言葉です。

これからの人生の中で、楽しいこと、つらいこと様々あります。時には、一息ついて、頑張るところでは頑張る、これからの人生を自分の力で切り拓いて下さい。

最後に、「チャレンジ精神」を忘れずに、健康に十分気をつけて下さい。

卒業おめでとう！



やさしさと厳しさと感謝の心

D組担任 木村以久子先生

皆さんと出会って早三年。なぜか縁があり、いつもその傍で見守る三年間でもありました。先生方の世代で言うなら、毎年くり返されるほんの三年間。しかし、皆さんにとって、この三年の月日は、大人の何倍もの価値あるものだったに違いありません。短い日々の中で、皆さんの変貌と成長する姿に、ただただ目を見張る毎日でした。「成長」とは、そだって大きくなること。将来、大きく発展する可能性を秘めていること。植物でいうなら、しっかりと根を張り、丈夫な茎になり、将来つけるであろう、花や実のために、自分自身でどっしりとした土台づくりをする時にあたるでしょう。皆さんのこの目まぐるしかった三年間の土台づくりは如何だったでしょうか。時に心が乾き、立ち止まりそうになった時、周囲の暖かい潤いの水、やさしさがあつたはず。それは、友であり、先生であり、そして父母の支えであったはず。特に最後の一年は暖かく、根気強く励ましてくれた父母の皆さんに深く感謝しなくてはなりません。「先生、あの子たち、もう気づいてもいいよねえ。ちゃんとやれるよね。」・・・いつも学校に来ては、皆のことを気づかってくれた父母の声です。その声に答えるためにも、これからは、もっと自分に厳しく、強く生き抜いて行ってほしいと思います。もちろん、皆さんの中には、この三年間、目標を持って、前向きに取り組む、立派に成長した人も多くいました。人はたった一人では成長できません。人は人の中でこそ育まれます。自分と同様、周りへのやさしさも忘れず、明るく、強く生きていって下さい。



慶びの春、船出

A組副担任 田中 篤子先生

一九九五年を象徴する漢字は「震」大震災、オウム関連事件、ハイジャックなど、世間を「激震」させるニュースが続く中、皆さんは人生最初の岐路に立ちました。皆さんがこれから迎える青春時代は「疾風怒涛時代」と呼ばれます。人生の荒波へと船出をする皆さんにとってはプロログとも言える大切な時期なのです。絶えず前向きに、希望と勇気をもって正しさを求め、新しい航路を開拓していくことを期待します。

卒業生の皆さんとは一年間のおつき合いましたが、接する機会が多かったと思います。身も心も成長し、大きく羽ばたいていけるように、心からエールを送ります。



「がんばろう 自分の道」

B・D組副担任 名古屋貞俊先生

卒業 おめでとうございます。

これからは、多くの人々に支えられながらも、自分のことは自分自身で決めて生活しなければならなりません。

常に、「自分の姿」というものを見つめ、今、何が大切かをよく見極めた生活をして欲しいです。その中で、周りで支えてくれる人々に対しては「誠意」・「勤労」・「り心を持ち、自分自身には「見識」・「気魄」を持ち、自分の道を切り開いて下さい。



「わずか一年でしたか…」

C組副担 後藤 賢一先生

今年度、昨年度の一年団から三年団へ飛び級して進級し、進路と英語の授業でわずか一年でしたが皆さんと一緒に生活することができました。四月当初、みなさんのことがよくわからなかったが、徐々にみんなの様子がわかってくるにつれて、学習面でかなり力の差があるだけでなく、行動面でもいろいろな活動に対する取り組み方に個人差があるのがわかってきました。正直いって今年度の進路は大変なことになりそうだなとその時思いました。この生徒会誌がみんなの手許に渡るころには公立を除いて結果がでているし、一週間以内には公立の結果もわかると思っています。努力が報われて、良い結果が多くの子にでることを祈っています。卒業おめでとう。



「自分を支えてくれた人」

数学担当 中谷 満先生

この文集を手にする時、もうすでに進路先も決まっている人、公立高校の合格発表を控え、心の中がもやもやしている人などさまざまなことと思います。皆さんは今、義務教育を終えるわけです。この一つの区切りの時、自分を支えてくれた人のことについて考えてほしいと思います。喜怒哀楽を共にし、時には厳しく叱責したこともあるでしょう。また時には、励ましてくれたことでしょうか。この人は誰かわかりますね。言葉で自分の気持ちを伝えてもよいし、照れ臭かったら、手紙でもいいのです。自分なりに工夫し、感謝の気持ちを表して下さい。これからの人生、自分を磨き、相手に思いやる心で接するそういう人になって下さい。卒業おめでとう。



音楽の調べ

音楽担当 成田 牧先生

卒業おめでとう。真新しい制服に身を包み、初々しかった君達がもう卒業だなんて…時のたつのは早いものです。映画「サウンド・オブ・ミュージック」。マリアとトラップ一家が繰り広げる、音楽に溢れた素敵な物語です。「ドレミの歌」「エーデルワイス」「私のお気に入り」…このチャーミングな作品一つ一つを聴くほどに「ああ、音楽っていいなあ」と実感します。音楽は心を豊かにし、人々に希望を与えます。唯一、世界共通のことはでもあります。音楽のない世界を想像できますか？果だってゆく皆さんに、これからずっと、大人になっても心に留めておいて欲しいことはひとつ。「いつも心に音楽を！」



「強い意志と思いやりのある人に」

美術担当 吉田 安宏先生

いじめや、年少少女の非行が世の人たちを悲しませたり驚かせたりしています。その原因や理由を分析してみると、当事者の意志の弱さ、他人の思いやりの欠落に根本的な要因があるように思えるものが多いようです。これから、ますます多様化する世の中を生きていくために、本人の強い意志と他人を思いやる心がよりいっそう必要になってきます。みなさんもこのことを真剣に考えて今後の人生に対応して行って欲しいと思います。私もみなさんの卒業と同時に三十九年間の教員生活に別れをつげます。これからは、別な人生を歩むこととなりますが、年令の差があってもこれからの世の中を生きていく努力は同じです。お互いがんばりましょう。



友を大切に!!

技術担当 杉山 春吉先生

卒業おめでとう。自分なりに良い友は剛直な人、誠実な人、教養ある人、逆に悪い友とはらかな方に流れやすい人、いや他人から見ても人ざわりがよい人、また口先だけの人、このような友人を選ぶ条件としては、良い友達をたくさん持つことが自分自身のためにもよい結果をえることになる！卒業後はたくさんの人と出会いながら生きて行くことになります。自分を大切にまた高めてくれる友達を大切に！して充実した生活を送ってほしいと思います。最後に自分自身を大切にしましょう。



「さりげなし、しなやかに・・・」

保体担当 信田 博之先生

百メートル、「四秒で走る子もある。一秒の子もいる。バスケットボールやバレーボールの得意な子もいる。ダンスセンスに光るもののある子もいる。

素敵な子って、どんな子。笑顔で何でもチャレンジする子、真剣な、まなざしで向かってくる子。仲間のため、チームのために、そのスピリットを発揮できる子。

流した汗の分だけ、感動は生まれるよ。
さりげなく、
しなやかに、
そして、ハートフルに。



「卒業生へ送る言葉」

養護教諭 森 豊子先生

みなさんとは、二年間のおつきあいでした。この短い期間の中でも、ほとんどの人は、心も体も確実に成長されたように思います。中学校での三年間は、楽しいことが多かった反面、進路の選択などを含め、悩んだり苦しんだりということも多かったのではないでしょう。五稜中学校での体験は、これからの人生の中できっと大きな比重をもって心の支えになると思います。

「夢なきもの理想なし。理想なきもの目標なし。目標なきもの実行なし。実行なきもの成果なし。成果なきものの喜びなし。」これは、マラソン選手の谷口浩美さんの手記で、私の大好きな一節ですが、みなさんの心にもとめていただきたい言葉です。卒業おめでとう。

急情は人間を不幸にするが、
努力は人間を幸福にするが、
後藤

“誠、心、疏れず”
必右屋 貞俊

竹のようにしなやかに
心豊かに生えよ！
中谷 満

$X + Y + Z = \text{夢かに生きる}$
・Xは自分を高める情熱、Yは世への思いやり
・Zは未知なる言葉を石の身で展望をしく創る力
山 岸 寿一

山は高い
海は深い 信田 博之
人は熱い
人の情をわきま、いつも笑顔で
吉田 宏

祝 卒 業

人生は、リタ形式のようにな...
exposition → development → recapitulation
Coda
我の 我

自分を大切にできる人
日他人をも大切にできる
杉山 清吉
月日は自らの過去に
行きたる年もまた故人なり
良い旅を、と願ういま、
田中 為子
本物の愛しさを
追求して下さい。
吉田 茂

健康第一
夢を持って前進あるのみ
いまでも お元気で
木村 以久子
一生不幸である。
聊を知らない人間は 世谷
蔵

人に愛されなければ、人に愛する
資格はない。 松山 元彦

どうして長い道のりは一歩一歩の
積み重ねである。 大木 可久美

Cool running!
“旅に無事あり”
K. Takahashi

“真摯敬聞。
努力はいつか報われる”
萩野 雅彦
“Where there is a will,
there is a way.”
“やろうという意志があれば、
道はひらける。” 下. Inosaka.

人間は弱い者である
それ故に 人間は、常に 弱くある
村井 貞夫

健康は、争わねば一生とぞええものです。
失ってその大切さを知る前に、毎日を
規則正しく生活しよう。 森 童子

“ケンジ精神”も
忘れずに
内木 竜
自由、水、空、大地、人、
土、水、空、大地、人、
土、水、空、大地、人、

～ 卒業生へ贈る ～ 在校生より

卒業生の皆さんへ

一年A組 江口敬子

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんと集団生活を共に送ったのは、たった一年間だったけれど、私達は本当に沢山お世話になりました。委員会活動や部活動、そして数多くの行事などに、一生懸命取り組み、私達の支えとなって下さった皆さん。今でもその素晴らしい姿が、目にやきついています。先輩達と過ごした日々は、とても楽しかったです。本当にありがとうございます。

私達も先輩達が残してくれた校風をしっかりと受け継ぎ、二年生の先輩達と協力して、立派な五稜中学校をつくり上げたいと思います。

そして卒業と同時に、思い出を大切にして下さい。友達と、先生と、そして五稜中学校との思い出を。思い出は、かけがえのない一生の宝物になると思います。私達も、皆さんとの思い出をしっかりと心にしまっておきます。

最後になりますが、これから皆さんは、一人一人それぞれの大きな道を行くと思います。そしてそれには、うれしいことや楽しいこと、つらいこと、悲しいことなどの様々な人生も待ち構えていると思います。しかし、どんなことにも、あきらめず、くじけない強い気持ちで生きて下さい。

私達は、応援しています。

思いやりの心を忘れずに・・・

二年A組 三上曉子

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

この一年間、学校全体の中心として過ごしてきた皆さんが卒業してしまふなんて、とても早いような気がします。

卒業生の皆さんと過ごした二年間、委員会や部活動などで色々と迷惑をかけたり、お世話になったこともありましたがどうもありがとうございました。

三年生の皆さんは、この五稜中学校に、忘れられない思い出がたくさんあると思います。そして、これからの長い人生の中で、その思い出はほんの少しの出来事にしか過ぎません。しかし、これから増え続け、たくさんの思い出となる出来事の中で皆さんは壁にぶつかる事が必ずあると思います。皆さんのそれぞれの道で、その壁にぶつかっても、決してあきらめたりせず、夢、希望、勇気の言葉を忘れずにがんばって下さい。

私達も、先輩の皆さんを見習い、自分達の夢に向かって、有意義で、充実したよりよい学校生活を送れるよう、がんばっていききたいと思います。

一つの事を成しとげた喜び、輝きは、他のどんなものにもかないません。

これから、いつまでも、あたたかく、思いやりのある心を忘れず、がんばって下さい。

今を大切に

3年C組 佐藤 裕介

今まで、卒業生をおくる立場にいた私達も今こうして送られる立場になり、三年間の中学校生活もあと残りわずかになりました。

振り返れば、長いようで短い、あつという間に過ぎたようでも長かった、そんな複雑な気持ちで一杯です。

さて、卒業を迎えるにあたり、私達三年生が在校生の皆さんに言えることは、この「五稜中」の中学校生活を大切にしたい、と言うことです。三年生のこの時期になれば少なからず感じる事ができますが、「今」というのは一度しかなく、そして二度とは戻せないものなのです。途中で挫折し、後悔してからでは遅すぎるのです。

——今を生きる

それが私達中学生にとって一番大事な事なのではないでしょうか。

中学校時代というのは、いろいろと悩みが多く、情緒不安定になりがちな時期ですが、そんな壁は乗り越え、失敗をおそれずただ前を見て下さい。私達には時間はたくさんあるのですから、失敗は後からいくらでもとりかえれます。今、必要なのはそこから生まれる経験なのです。良い事、悪い事両方あるのでしょうが、どちらもかけがえのない経験として人に積み重ね、そして人は大人になっていくのだと思います。

今まで自分が体験してまた経験を決して後悔しない。そんな人間になれるよう、今の中学校生活を生きて下さい。

在校生のみなさんへ

～ 楽しかった日々、そして旅立ち～

3年D組 黒嶋 宏美

「三年なんて、長いようで短いのだから、たらたらしていると置いていかれるよ。」入学式の帰り道で、母から言われたこの言葉の意味が、今、卒業生という立場にたち、やっとわかったような気がします。

三年たった今だから言えることです。私は、色々な感情が交差する、この学校という所が、最初は苦手でした。私は、友達心がわからなくて、いつも、どんな態度で接すれば傷つかずにいられるかで悩んでいました。でも、誰も傷つかずに過ごせるわけがないのですよね。人は傷つけあうことで、お互いを知るのですから。ただ私の場合は、傷つくことがこわいから、辛いことに向かっていく勇氣がなかったから、誰も傷つくことのない道を探してしまっただけです。感情が交差するくらしの中で、傷つくことを、おそれてはいけません。強い心をもたなくては。そう思った時から、私は、友達のことを少しずつ理解できるようになっていました。そして、学校に対する苦手という観念は消えて、好きという気持ちが生まれていました。今生活が楽しいと思えるのは、この心境の変化のおかげだと思います。

最後になりましたが、一二年生のみなさん、これから体験する、幾つもの辛いことに目をつむらないでがんばって乗り越えて下さい。三年間思い出のアルバムを開いた時、あなたの笑顔が、そして友達笑顔が、あなたの、かけがえのない宝物となることを、願っています。

部 活 動

一年間の活動記録



常に努力を惜しまずに…

野 球 部

僕たちが野球部に入部して、三年という長いようで短かった月日が流れました。僕達が一年生の時に優勝、昨年は一回戦敗退、そして今年の目標としては優勝へ返り咲き、とだれもが望んでいました。しかし、今年の三年生は問題が多々あり、部活停止などが何度もありました。中体連の前にも内輪もめなどありましたが、何とか中体連に向けて体制を整えることができました。

前日に雨が降り、グランドコンディションが悪く、時には霧がかかる状態での初戦は本通中で、苦戦の末に勝利しました。二回戦は湯川中で、大差で敗れてしまいました。やはり、付け焼き刃の練習では勝つことができないと思い知らされました。今の一・二年の後輩達は、新人戦を優勝しているからといって決してつけ上らず、常に努力を惜しまず、全道大会で活躍してほしい。

後輩達には、夢を叶える力があると信じています。

最後になりましたが、杉山先生・後藤先生、今まで僕達を導いて下さいまして本当にありがとうございます。

(佐藤 祥一 記)



努力の大切さ

卓 球 部

僕達卓球部は、毎日、高橋先生の下で練習を行い、去年の新人戦では、団体戦で全道三位という成績を取ることができました。そして、中体連二連覇を目標にさらに練習を積みました。

中体連当日は団体戦予戦リーグがあり、本通中に三対一、桐花中・湯川中を三対〇で下しました。決勝トーナメントでも一回戦の附属中、準決勝の旭岡中、決勝の亀田中にそれぞれ三対〇のストレートで勝ち優勝することができました。個人戦では、一位が僕で、二位が小栗君、三位が石黒君と長谷川君で、全道大会に出場できる上位四人を、すべて五稜中から出すことができました。

団体戦の全道大会の出場を決める渡島支庁大会では上磯中に負けてしまいました。個人は、美唄市で行われた全道大会に出場しました。初戦での負けはなく、それぞれ二、三、四回戦まで進みました。

日頃、高橋先生に「運動神経がよくない。努力をするしかない。」と言われ、真剣に練習をしてきました。そのおかげで目標を達成することができ本当に良かったです。

最後に、三年間指導して下さいました高橋先生と先輩達、どうもありがとうございました。(山崎修司 記)



部活動を終えて

サッカー部

三年生になって、中体連も終わりとどうとう約二年半活動してきた部活動も終わってしまいました。振り返ってみると、自分が一年生の時、確かに新入部員は二人以下だったような気がします。この数でやっていけるかと思いましたが、けれど、転校していく人もいれば、やめる人もいます。三年生になって、気がついたら、自分と玉森君としま君だけ。けど、最後まで続けることができてとても良かったです。

あまり書くことが思いつかなかった。なので、何年前ののを見てみると、「中体連初戦敗」がどうのこうのと書いてあるのがほとんどでした。今年はどうだったかと言うと、やはり負けてしまいました。点数は書かないでおきます。でも、来年は今年とはちがうと思います。今年には三年生が二人しかいないし……なんてことを言うと、負け惜しみを言っているようなんでやめときます。でもやはり、主将と副主将は、自分たちの時より良いと思います。(特に副)。おかげで、安心して引退できました。最後になりましたが、萩野先生、木村先生、名古屋先生、今まで大変お世話になりました。そして、萩野・名古屋両先生、先輩へのご指導よろしくお願いします。(西口裕司 記)



手にしたものは

男子バスケット部

私達男子バスケット部は、先輩方が引退された後、中体連だけを目標に、毎日全員が、といってよいほど休まずに練習を続けてきました。早朝、七時半という早い時間から行われた「朝練」も大半の選手が参加し、チームの雰囲気もよいものでした。

しかし、私達が他校と決定的に違ったものがありました。それは「背」の高さです。私達は技術面、スピード面では他校には決しておとることはなかったと思います。ただ要となる「センター」がいまぜんでしたので、どうしても決定打が打てず、近差でいつも負けていました。試合が終わるととても悔しく「何故、俺達だけが負けるんだ」と皆して言い、私は試合ごとに「辞めてしまおうか」と何度も思いました。しかし、そんな時だらけで練習している時はいつも信田先生が私達をしっかりと力づけてそのたびに私達は乗り越えてきました。

この二年間半、私達部員全員はどんなことにも負けない強い精神力とあきらめずに貫き通す事の大切さを養うことができたと思います。

最後になりましたが、こんな私達を見捨てず三年間熱心に指導してくれた信田先生、本当にありがとうございました。（佐藤 裕介 記）



信じたくないあの日 信じあえた仲間

女子バスケット部

寝ても覚めてもバスケット。そんな生活が始まったのは、今から三年も前のこと。入部当初、ルールも知らずに、ただひたすら走り、やっと覚えたかと思えば引退、何もかもが早すぎて、自分たちの夢を実現できなかったことが心残りです。

私達が大会に挑む前、きまってしまう間に目標が生まれます。「全道大会出場」「決勝進出」といった感じで。結局、目標が大きすぎたのか、ただのうぬぼれだったのか、どの目標も現実にはできず、新人戦でも中体連でも涙をのみました。

私は、バスケットをしたことで、試合の勝敗の他にチームワークの大切さを知りました。同じ夢に向かって汗を流し、大声を出して喜び、そして共に涙を流した仲間は誰よりも信頼できる人たちだと思っています。

先輩たちへ、自分達の仲間を信じて、私たち以上に、よい成績を残して下さい。

最後に、いろいろと心配のかけどおしかった信田先生、岩崎先生本当にありがとうございました。心から感謝しています。

（島谷 好恵 記）



——ああ、あの頃は……そうだな——

コンピュター部

「コン部」という愛称で親しまれてきた、コンピュター部が創設されてはや4年。驚くほどの急成長をしました。創設当時と比べて、本体が2倍近く増え、部員数も年々増加しつつあります。

部活動の内容は、基礎的なことばかりでしたが、3年間の積み重ねによって、十分な技術を身につけることができました。

今年、一番忙しかったのが、文化祭用のソフト作りでした。週2回というペースだったので、未完成ソフトが多く、本体がたくさんあるのに、ソフトが3〜4本程度しか使えなかったもので、とても残念に思いました。(できなかった人へ。ゴメンなさい。)

3年間を通して、入部した人もいれば、辞めた人もいました。さばった人もいました。けど、それはそれで構いません。コンピュターを使う技術を身につけ、楽しみ、そして、コンピュターは生活の一部なのだということをわかってくれる人がいれば、それでいいのですから。

部長という立場なのに後輩達とあまり接することはありませんでした。が、時々部室を掃除してあげました。最後になりましたが、中谷先生、今まで本当にありがとうございました。

(高松 啓記)



「後輩達へ……」

テニス部(女子)

私達は、共に活動した先輩達の意志を受けつぎ、「団体戦三位入賞」を目標に、一生懸命活動しました。試合に慣れるように、他校との練習試合をもっと多くしてもらいたかったのですが、一度もできないまま、中体連を迎えました。

結果は、団体戦予選リーグ一校を敗り、残りの二校は惜しくも負退。しかし、団体戦も個人戦も部員一人一人が独自の力を発揮し試合に挑むことができ、そしてまた、この一年の間で、部員一人一人がとても成長することができたと思います。

後輩達へ。私達の果たせなかった目標「団体戦三位入賞」を果たせるように頑張ってください。それと、一度もできなかった他校との練習試合をいっぱいして力をつけてください。

そして最後に、部員全員で力を合わせ、「この部に入って良かった」と思える部をつくってください。

(三年生一同)



楽しかったバレーボール

バレーボール部



私は、必ずと言っていいほど対戦相手を喜ばせるチームだった。先輩達もそんなに強くなかったので、強くなろうと思って2年の夏休みに参加したジュニアキャンプ。(バレーの指導者が行った講習)あまりの下手さに「帰れ」とまで言われ、本気で帰ろうかと考えたこともあった。下手だからこそ参加したのに、「帰れ」は、私達にとつてきつい一言である。校内でもバレー部の悪口はときどき耳に入ってきた。試合に負けた瞬間、悪口を聞いた時。その当時はくやしい気持ちでいっぱい練習に励んでみるものの、冬は寒さが、夏は暑さが私達の「やる気」の足をひっぱる。顧問の先生もほとんど練習に顔を出さなかったため、私達の行動を怒る人はだれもいなかった。それをいいことに、私達のすることは練習から遠ざかっていた。でもバレーボールは好きだった。もし厳しい練習をしていても、それは勝利と言う結果に満足するものだと思う。試合も大切だけど、いくら遊び半分でも私達はバレーボールそのものを楽しんだような気がする。

先輩達へ。強いチームも弱いチームも、勝ちたいのはみんな同じ。本当に好きかどうか、問題ですよ。

(山村 千尋 記)

文化祭に向けて

演劇部

去年の文化祭は、18人という大人数で挑みました。

役者8人、裏方2人、そして8人もの大道具係(笑)！実は今回の劇は、自分達で作った物なのです。ですから演じるより、場所がえの準備で、場面がとぎれ、とぎれになってしまったのかもしれない。

文化祭までには、色々な不安がありました。「こぶし座」という劇団がいらっしやいましたので、みんな、最後まで見てくれるかな？そして何より、役者の声が後ろまで聞こえるかな？文化祭までに仕上げ、自分達の満足する演劇ができるか？考えれば、考えるほど色々出てきます。一年部員も色々気を使ってくれ、とても助かりました。

みんな自分なりに精一杯頑張ってくれました。今年は去年の失敗を心にとめ、今年は必ず成功させ、笑顔で中学校を卒業できるように頑張りたいと思います。

最後に、所属している部活も休み、手伝いに来てくれた、大道具係のみなさん、本当にありがとうございました。今年もみんなでがんばりましょう！

(金子めぐみ 記)



ありがとう

吹奏楽部

入学式から始まり、対面式、吹奏楽コンクール、文化祭、そして卒業式で終わる。吹奏楽部の1年は忙しい。特に私達、吹奏楽部員が命をかけて取り組むものが1つある。それは、コンクール。コンクール前は朝の9時から夜7時までとハードな練習を重ね、他の学校の先生方にもいろいろと指導していただいたが、あと一步の努力がたりなかったのか、それとも、実力がたりなかったのか、結果は銀賞だった。声をあげて、大洪水の様に涙を流したのにもかかわらず、打ち上げでは、ひたすら注文しひたすら食べまくったその回復力は尋常ではない。そこがまた吹奏楽部員の良い所なのだ。

しかし、あそこまでがんばれたのは、皆のやる気もあるのだが、顧問の成田先生のおかげでもある。先生の私達に対する、あの挑発は驚く程の効果がある。一言目で私達にエネルギーを注ぎ込み、二言目で火をつける。その勢いで私達はがんばってこれたのだと思う。心からありがとうを伝えたい。「本当に3年間ありがとうございました。」そして後輩のみなさんには、大勢の人に感動を与えような音楽をつくりあげてほしいです。

(小川いづみ 記)

思い出あふれる一年間

合唱部

私達合唱部は、出だしといえる対面式では失敗したものの、他の活動では良い合唱をたくさんすることが出来ました。

その中でも、特に心に残っているのはNHK全国合唱コンクールです。それは何時間も歌い続けたつらい練習、朝で声が出づらいにもかかわらず必死に歌った早朝練習、講習会：と色々大変だったけれど、みんなの心が一つとなってがんばれたからです。そしてその結果、銅賞を取れたことは、今後の活動につなげる大きな自信ともなりました。

その後の行事では文化祭もあり、4曲にチャレンジしました。歌いたかった曲を入れたり、混声合唱にも挑戦し、楽しく歌えたと思います。この文化祭も私達にとって大切な思い出となりました。

その他にも色々な行事があり、一つ一つが良い経験となりました。これらの思い出が出来たのも、文化祭の仕事などで忙しいにもかかわらず手伝ってくれた皆さん、熱心な指導してくれた田村先生・田中先生のお陰です。本当にどうもありがとうございました。

来年は、合唱の楽しさを多くの人にわかってもらおうとともに、よりよい歌声が聞けることを期待しています。(中尾 茜 記)



〈常設部活動 部長一覧〉

部 名	前 期	後 期
野 球	上 田 泰 史	政 守 隆 介
サ ッ カ ー	西 口 裕 司	池 田 慎太郎
テ ニ ス	柴 田 理 恵	下 田 倫 子
男子バスケット	佐 藤 裕 介	竹 田 賢 太
女子バスケット	島 谷 好 恵	佐々木 直 美
バレーボール	山 村 千 尋	加 藤 敬 子
卓 球	山 崎 修 司	橋 野 卓
吹 奏 楽	小 川 いづみ	半 海 やよい
合 唱	中 尾 茜	
コンピュータ	高 松 啓	青 木 信 人

平成7年度

部活動一覧

◇◇◇常設部活動◇◇◇

野 球 部	後 藤T 杉 山T 吉田(孜)T
サ ッ カ ー 部	名古屋T 萩 野T
テ ニ ス 部	大 村T 内 木T
バスケットボール部	信 田T 岩 崎T
バレーボール部	山口 T 松 山T
卓 球 部	高 橋T 村 井T
吹 奏 楽 部	成 田T 笹 谷T
合 唱 部	田 中T 吉田(安)T
コンピュータ部	中 谷T 木 村T

◇◇◇特設部活動◇◇◇

演 劇 部	村 井T 吉田(安)T
ボランティア部	杉 山T
茶 道 部	木 村T
木 彫 部	辰 巳T
英 語 部	岩 崎T
文 芸 部	萩 野T
木 曜 大 工 部	松 山T
地 球 科 学 部	大 村T
化 学 部	笹 谷T



平成7年度卒業生

思い出をこのページに残して

雑草

雑草が

あたり構はず

延び放題に伸びてゐる。

この景色は胸のすく思ひだ、
人に踏まれたりしてゐたのが

いつの間にか

人の膝を没するほどに伸びてゐる。

ところによっては

人の姿さへ見失ふほど

深いところがある。

この景色は胸のすく思ひだ、

伸び蔓れるときは

としとし延び拡がるがいゝ。

そして見栄えはしなくとも

豊かな花をどつさり咲かせることだ。

(北川冬彦 による)



中村(申)	吉住	相馬	佐藤(卓)	友田	保科	松行	飛島	山崎	阿部	高橋	福森
笹谷先生	高松	小林	樹田(聖)	窪田	石川	美濃谷	岡	倉嶋	島谷	鈴木(希)	樹田
	久保	表	沢谷	松宮	田中	齊藤	野口	和野	工藤	東	金子
											教頭先生
											田中先生

3-A

いつかどこかで

笹谷級

3-Aの一員として、これからこの五稜中を卒業するみんなへ一言。今まで本当にありがとう。それは、限りなく自分達のクラス、「3-A」を愛したみんなが抱いている、この上なく熱い想いを象徴しているにちがいない。たくさん思い出とともに。

中学校に入學した頃は時間の長さに目をおった人も多いと思うが、今考えてみれば、時間の少なさにア然とする。時間は無限ではない。いつかは別れる時が来る運命にあるのが、中3なのかもしれない。

3-Aは何か良いのかと言うと、はっきり言うて何もない。ただ、授業中うるさいだけで、賞状に關して言うとう、女子はいいとして男子は・・・。だけど、そこには、いつもと変わらない「3-A」の仲間がいる。個性があり、いつも笑い、そして楽しんでたあの頃。いちばん幸せだったのもしかして、あの日、あの頃、あの時間なのかも。そんな思い出があるから、余計に「別れ」が悲しくなるのだろうか。

別れは新たな出会い、いつかどこかで会う日を楽しみにして、今、私達は旅立つ。

卒業生一人一言

3-A 編

僕はいつまでも君をあいしてるぜ

① WHO ARE YOU?

Let's try

1日1歩3日で3歩前進だ!!

「趣味に生きて散らすのが人生」

君が好きだったあの頃へ

あなた、ハムやめますか?

Forever For never

来年はゆうしうだTigers

はかなく消えていく愛を永遠に。

See You Again!

② POKAHONTASHU

いつかならず会える日まで

明日にむかって、レッツゴー

今年は広島カープが優勝だ!

AHO

君をつくる全ての要素を愛してた

出逢った日の胸のときめき。

あの日の二人に戻りたい……

石川 弘二
表 和昭
久保 好輝
窪田 正雄
小林 覚
佐藤 卓也
沢谷 啓行
高松 啓
田中 悠介
友田 聡史
中村 申
保科 光佑
榎田 聖司
松宮 隆直
美濃谷 隆
吉住 裕幸
東 静香
阿部 夏乃
岡 美里



自分の夢を見失わないで……
どうか消えないで見つめて欲しい
神様、どうか私達に永遠の笑いと
身長を5センチ下さい。フッフ♡
熱い鼓動と輝く時間を残して……
キレイな愛は綺麗?
これからは頑張りましょう。
何もかも受けとめる光がほしい。
あなたの瞳にずっと私を映してて
二度と戻らない美しい日にいると
うーあーちゃばにいず
あなたの柔らかい唇のもとへ×××
これからも、貴方だけを愛してる
涙を流すたび強くなってく……
きつと言えるきつと届くこの思い
傷つけ合った2人のままで……

金子 祐子
工藤 美帆
倉嶋 千恵
齊藤 敦子
島谷 好恵
鈴木希依子
鈴木紀美子
鈴木木たか子
高橋 麻希
飛鳥 明子
野口 賀代
福森かおり
榎田 香里
松行 麻里
山崎美代子
和野 恵子



山下	姥名	畔柳	高橋(美)	三橋	長内(大)	石黒	小栗	西口	玉森	日下
長内(あ)	三浦	久保田	東谷	奥島	船山	佐藤(祥)	大沢	横田	金沢	八重樫
中尾	山本	高橋(佳)	鈴木(美津)	谷川	教頭先生	山口先生	島村	平池	遠山	佐藤
										長内(崇)
										対馬

3-B

『ベジータ』ひきいる

3年B組

山口級

私達のクラスの担任の山口先生はみんなに「ベジータ」と呼ばれています。なぜなら、おでこの部分がV字になっているからです。前書きはこれくらいにして、うちのクラスの生徒についてお話ししましょう。私達のクラスは、とてもやさしい人の集まりだと思っています。そして、とても協力性のあるクラスです。げんに合唱コンクールで金賞をとることができましたし、体育大会のクラス対抗でも1位でした。このみごとにチームワーク。これは、3年B組ならではの思いです。しかし、最初からこうだったわけではありません。いろいろな行事をやりとげていったチームワークです。そして、もう1つは、仕事をたのむと、すすんでやる人が多いことです。

先生をふくめて、35人の小人数のクラスですが、1人1人がとても明るく、個性あふれている人達の集まりだと思っています。

高校がはなれても、きっと、3年B組にいたころと同じように、みんなの心は、かよい続けることでしょう。

(作 山下 晴美)

卒業生一人一言

3-B 編

自分の夢を追った、その先には…

あちゃー、おちゃー、むぎちゃー

青春ていいなあ

メロスにメロメロっす。

仲間を失いたくない。

あちゃー、おちゃーげんまいちゃ

みかけたら声をかけよう／＼

CAUTION

SKULD

I LOVE SKULD

けっこうたのしかった。

麻乃ちゃんLOVEって感じ♡

2つ前の人はゴリさんです

あちゃおちゃそーけんぴちゃ

.....

あちゃーおちゃーせんちゃ

強い戸惑いを意味のない笑顔に

悲しくなる程誰かを愛したい

約束したよね。十年後にまた…。

石黒 大貴

大沢 高陽

小栗 明

長内 大輔

長内 崇

金沢 悟志

日下 博晶

佐藤 祥一

佐藤 祐樹

島村 誠

玉森 和久

對馬 洋一

西口 裕司

平池 康浩

八重樫 望

横田 紘一

東谷麻祐子

畔柳 未央

蝦名あゆみ

①今すべてをこえてく勇気が世界
あの人にさよならを告げられたら
.....

なにより大切な仲間を守りたい

洋一LOVEって感じ♥♥♥

ながーい三年間でした。

I MISS YOU...

一番の笑顔を貴方に・・・

明日の日を夢みて希望の道へ……

傷つけ合った言葉も重ねた涙も…

誰よりも素敵な笑顔を愛してる。

「卒業」ありがとう。

②を輝かせるもう泣きたくなる程

幾千年の時を経て永遠の夢となる

③激しくあなたを愛している

His name is
ベジータ



奥島由美子

長内あゆみ

久保田信江

鈴木美津実

宗山 麻乃

高橋佳菜子

高橋美由紀

谷川 明子

中尾 茜

船山 裕美

三浦 理沙

三橋 奈々

山下 晴美

山本 千鶴

鈴木 美香



若村 野坂

長谷川	谷口	伊藤	杉山	高橋(克)	北山	柳町	金丸	山村	小川	加藤	川島
後藤先生	金城	佐藤(裕)	高橋(英)	土井	村山	奥田	松村	米田	外崎	井端	中村
佃	佐々木	千田	小泉	竹内	内木先生	北川	森野	鈴木	柴田	橋野	佐藤(朋)

3-C

騒がしき我がクラス

内木 級

三年C組はいつも騒がしかった。全員が全員それぞれ強い個性を持っていて、それらの強さのせいで、もともとそれほど個性的でもなかったような人が、心の片隅にあった自分の一部を呼び起こされて、個性的な人間に変わっていったのである。それほど強い個性たちだから、いつも騒がしくいらいは当然だった。だから、このクラスが騒がしくした分こんなクラスを担当した、内木先生には、大変なものになっただろうと思っている。

これだけ書くと、3年C組はまるで騒がしいだけのクラスだったようだが、もちろん、そんなことはない。このクラスがいつも騒がしいということは、結局みんながいつでも楽しんでいっているということで、休み時間が来ればこのクラスはよりいっそう騒がしく、楽しいクラスになる。だから、毎日学校に来るのがとても楽しかった。

最後に、この騒がしくも楽しい私たちのクラスを、一年間見守り続けてくれた内木先生、おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

卒業生一人一言

31C 編

.....

中ブ連・入りたい奴は入れ...!!

.....

テュギャザーしようぜ!!

弱き者を助け強き者をくじく

沈着冷静...私にはほど遠い言葉だ

.....

筋肉男子隊 初代特攻隊長♡

筋肉男子隊 初代総長

前進あるのみ/十五の春

筋肉男子隊 初代親衛隊長

長いようで短い三年間だった..

勝負あり。天草四郎時貞。お見事

もっとおもしろい本が読みたい..

オイ横山弁護士ちゃんとしやべろ

.....

まいつか。

LOVE LOVE LOVE

Forever Friends

Bye-bye

堂本光一♡オレがおまえを守る

アロエ大好き♡森田剛。

夢へ向かって進む階段

死ぬまで2人で愛を語ろ.....

貴方を想い今、あふれる涙...

とまらない未来を信じて...

Goodbye everyone

一緒に話した時間を取り戻したい

高校に行っても勉強をがんばろう

ジャマイカのヒーロー貴水博之

サンキ。

Bye-bye!!

最高の夢を探しに行こう!

時はいつの日にも親切な友達

バレーボールでダイエツト

あの頃の私にGood-bye



加藤 茜

金丸のぞみ

川島 雅望

北川摩衣子

佐藤 朋子

柴田 理恵

鈴木 陽子

外崎美佐子

中村菜穂子

野坂 梨絵

橋野 一恵

松村麻衣子

村山 佳代

森野 通子

柳町 陽子

山村 千尋

米田 美保



上田	工藤(良)	中村(浩)	佐藤(宏)	道下	田中	吉田	新	小林	葛西	大野	横山	市島
教頭先生	加藤	山田	中村(公)	須藤	中村(大)	佐々木	荒井	山内	米内山	富樫	藤山	森先生
板川	新保	山田	中村(宏)	石井	工藤(秀)	木村先生	河村	黒嶋	松倉	藤野	笹木	小笠原

3-D

永遠なれ

3-D

木村級

我ら三年D組は、男子十八名、女子十九名で構成され、明るく活発なクラスです。我がクラスは、一人一人が個性を表すのがとても上手で、六月に行われた体育大会でもそれが立証されました。クラス全員が出る対抗リレーでは、団結の二位。そして、なんと男女共に一位で、総合優勝を果たしたのであります。一人ひとりの持ち味を生かした結果でしょう。しかし、そんなD組ですが、短所もあります。個性が強すぎ、何かをやろうとする時、なかなか方針が決まらないこともあります。合唱コンクールでは、始めて足並みがそろわず、先生も気合を入れて歌ってしまったという場面がありました。結果はともかく、精一杯歌い、みんなの心が一つになった朝だったと思います。ところで、この個性派ぞろいのクラスをしきるのは、女帝木村以久子先生です。勉強はもちろんのこと、何事にも生徒と一体になり、一生懸命になってがんばる先生です。その先生の下、クラス一丸となり、行事や入試に向けて、ベストを尽くしてがんばってきました。「はい、おわり」今日も先生のこの一言が、3-Dの教室に響いてる。

卒業生一人一言

3 | D 編

人生の道も一秒から。

気合十分爆音小僧

一人に震え 二人に疲れ・・・

卒業後もまたみんなて遊ぶべし

みらいのきぼうへもいっばです。

筋肉男子隊 NO. 2

みなさん、さようなら。

この学校生活はとても楽しかった

おお、キャブテン、我が船長。

生きてく強さを重ね合わせ・・・

バイバイ

のーみそコネコネ

人生なんてこんなもんさ

男子テニス部の、復活を・・・

十五文字じゃ書き足りない...

おんせんず

助さん、人生楽ありや苦もあるさ

みなさん、また、あう日まで、

この出逢いを永遠にかえてみせる

石井 亮宇
板川 秋二
上田 康史
加藤 順平
工藤 秀昭
工藤 良太
佐々木康二
佐藤 宏樹
新保 謙司
須藤 隼人
田中 嘉之
中村 公一
中村 浩司
中村 宏介
中村 大
道下 保大
山崎 修司
山田 直人
荒井 美加

Last FANTASTIC

また、どこかで・・・。

私の思いに限りはない。

Have a Fight!

こうして変わらぬ想いを.....

もうもどらない。・・・でも」

忘れない、愛しいほほえみ・・・

愛する人に愛されるために・・・

愛しているといってくれ♡

私の気持ちに、気がついて

①ルンララ 宇宙の風に乗る。

涙の向こうの春を目指すヨ!

砕かれる平穏 動き出す時間

いつかどこかで君に会えるように

V6三宅健大好き

「大志」ambition

目が覚めるまで 側にいて・・・

②ルララ 宇宙の風に乗る



市島加奈子
遠藤 麻美
大野まり子
小笠原 愛
葛西 彩樹
河村 法子
黒嶋 宏美
小林あゆみ
笹木瑠美子
新 あやか
富樫 真澄
藤野 静江
藤山あや子
松倉 瞳
山内奈緒美
横山 友紀
吉田 忍
米内山里子

平成7年度 生徒会テーマ

Try our Dream

一歩ずつ夢の実現へ



3年 野口 賀代



2年 小柳 なつみ



1年 星 沢 三 奈

修学旅行記



盛岡へ

三年A組 斉藤敦子



「修学旅行か。どうせ団体行動だしな。普通授業よりはいいか。」私は函館駅に来るまではそのくらいにしか考えていなかったのですが、みんなが集まり出発時間が近づくとつれて落ち着かなくなってしまうました。時計をちらちら見るようになり、先生の話は耳をさめるだけになり、何度となく先生の顔に目を向けては話が早く終わることばかりを考え続けていました。ようやく話がかわりホームへ向かうことができました。汽車の中で荷物をかたづけ、少し落ち着いたらかなと思っていたころ、ガタンッと汽車がようやく大きな体をゆらしました。見送りの先生方に手をふった後、カメラを取り出して写真を撮ったり、しおりをながめたりしていました。

青森に着くと、頬の筋肉がゆるみそうなのをこらえながら駅を出ました。一度来たことがあるのにとっても新鮮で、まえに来た時とは全く別の雰囲気を感じました。そして、これからの旅が、とても楽しみにまりました。

色彩豊かな中尊寺

三年A組 美濃谷 隆



中学校生活最大の行事、修学旅行。長くて短い三泊四日の旅。その記念すべき第一歩はここ中尊寺から始まった。

中尊寺で一時を過ごして一番印象深かったのは、緑の美しさだったと思う。今でも中尊寺といえば緑が自然に思い浮かんでくる。木々の緑とやわらかさ、階段の白さと堅さ、そして金色堂から放たれる神聖で厳かな感じ。それぞれがバランスよく調和さわっていて、なんとも表現しがたく、胸にじんわりと浸透してくる様だった。そして高台から一望の下に見おろす平泉の町も緑がきれいに映えていて、素晴らしいながめだった。ここを出る時には、満足感が心がみたされていた。

一句

梅雨ひとしづく 緑に映える 中尊寺

風情あふれる舟旅を終えて

三年B組 山本 千鶴



五月晴れの良い天気の中、私達は、一日目の宿泊地、金鶏荘を出発し、次の目的地である猊鼻溪に到着したのは、みんなまだ寝惚けている時間帯の午前九時頃。

バスの窓から差し込む日の光りにふと目を覚まし、辺りを見渡すと大自然に囲まれていることにとても驚いた。

一隻の舟に一クラスずつ乗り込みいざ出発。一息つく間もなく、船頭さんの説明が始まったが、ほとんどの人は、その説明を一応見聞きしながらも、舟着場で買った五十円のエサを魚に与えている人などみなさまざまな様子だった。ところが、こんなみんなを、くぎづけにさせることがあった。

それは、途中の洞窟内にある賽銭箱。みんな一斉に、舟の上に立ち上がり、力強くにぎりしめて温かくなった小銭に願いをこめて、投げてした。帰りの舟の中での船頭さんのしかめっ面で、得意気に熱唱していた「げいび追分」が、川中に響きわたった事は、今でも忘れない。そんな思い出を胸一杯に、ここ猊鼻溪をあとにした。

手づくり村を体験して

三年C組 佃 有 射



二日目、バスが盛岡手づくり村に着きました。この手づくり村は、修学旅行の中で、けっこう期待していた場所の一つでしたから、ちょっとばかり、気分が良かったです。バスから降りて、手づくり村の中心で、出入口も兼ねた大きな建物に入りました。まずそこは、ほとんど素通りして、外でみんなが手づくり教室でつくる物ごとに並びました。ぼくは、その中でも、人気が高かった、陶器づくりに、工房に入りました。

職人の方の指導が終わり、皆に教材が配られると、最初は少し迷いながらも、指導どおりに、陶器をつくりました。ぼくはけっこううまくできたので、ちょっと満足して、時間が余った分、おみやげなどを買うために、元の大きな建物に、戻りました。

陶器を作るなんていうことは、なかなかできることではないのでとても、いい経験ができました。

エメラルドが誘う、無限の美

幻想的な地底湖の魅力に迫る

三年B組 山 本 千 鶴



修学旅行も三日目。みんなの顔にもずいぶんの疲れが見えはじめ移動のバスの中では、大半の人が深い眠りに入っていた。そんなみんなが夢を見ている頃到着したのはここ龍泉洞。眠い目をこすりながら、ゆっくりと洞内に入ると、気温が低いため肌寒く、とても暗くて足場が悪く、上を見ると、鍾乳石からピタピタと止まらなく水滴が落ちるという状態。それならまだしも、途中の窮屈で長い急な階段があり、それには絶叫していた人も何人かいた。

やっとの思いで、上に上がり下を見下ろしてみると、別世界にいたような、大自然の息吹を秘めるエメラルドの湖水が迎い一面、広がっていた。この時、時が経つのも忘れて、この美しい地底湖に見入っていた私達…。

——私は、この魅力的な龍泉洞での沢山の思い出を、いつまでも、きっと忘れないだろう。——

楽しかったレクリーション

三年C組 佐々木 貴司



今回の修学旅行のレクリーションは、クラス代表による「カラオケ」大会でした。代表として登場した人達の「歌」が、予想していたより上手だったのに、僕はまず驚きました。

そして、代表として歌っている人は、ものすごく盛り上がっていたのも印象的でした。

聞いている僕たちというと、歌っている人たちの「熱気」が伝わり、けっこう一緒に楽しむことができ、

歌うたびに拍手が飛び交い、時にはひやかしの声援なども贈られながら、クライマックスへと向かっていきました。

最後の表彰式の場面を迎えると、代表として歌った人たちは、それぞれ「賞」をもらい、バフォーマンスなども加わり、僕たちも楽しむことができました。

色々、思い出深いできごとの中でも、印象の残る「レクリーション」でした。

県立博物館が見せてくれたもの

3年C組 米田 美保



修学旅行四日目。もうそろそろで、修学旅行の幕が閉じてしまう。そんな時に、私たちは大きな壁にぶつかってしまった。それは、そんがで作られた長い長い階段だった。この階段を上がらないかぎり博物館に入ることができない。「こんな階段を上がるくらいなら、バスの中にいた方がいい。」と思いつきながら上っていた人もいたのではないだろうか。

ようやく着いた博物館の中には、圧倒される物ばかりだった。岩手県にまつわる歴史をくわしく紹介し、近代の美術関係の作品まで、幅広く展示されていた。

残念なことに、スケジュールが遅れてしまったため、じっくりと見る暇もなく、圧倒されていた心もすぐに消えてしまった。だから、博物館で見た物の記憶は、ほとんどの人がうすれてしまっているでしょう。

それでもこの博物館は、すばらしい物を私たちに見せてくれたと思う。

鉾山のトンネル 「マインランド尾去沢」

三年D組 山 田 直 人



修学旅行の四日目、僕はマインランド尾去沢へ行った。

この日は、あいにくのくもりであり、みんなもつかれている様子である。尾去沢では、マネキンをつかって当時の作業現場を再現しており、僕はマグシーバーを耳に当て、説明を聞きながら鉾山を歩いていきました。

歩いて行くと、当時の現場の様子がわかったり、白い物が全て光るレーザー光線などがあり、僕は

も楽しめたと思います。

鉾山の見学をし終わると、みんな、売店の方へ歩いていきました。そして、バスにのって、青森駅に向かい、函館に無事到着することができました。

こうして、中学校生活最大のイベント、修学旅行は、幕をとじたのでした。この修学旅行を通じて、いろいろな思い出や、地方の文化や自然を感じ、いろいろな知恵を得たと思います。そして、とても楽しく、充実した三泊四日の旅でした。

(旅行を終えて)

修学旅行から得た将来の翼

三年D組 横 山 友 紀



今、修学旅行を振り返ると、楽しかったこと、感動したこと、学んだこと、と次々に思い出があふれてきます。私達にとって、この旅行の四日間は、忘れられない毎日だったから。

たくさんさんの感動と、楽しさはもちろんのこと、私達は大切なことを知ったと思います。ホテルの夜で、あまり楽しすぎて、ホテルの方々に迷惑をかけてしまつて、私はこのことがあってから、「自分の勝手な都合によって、他人を絶対に傷つけてはならない。自分が大事なように、他の人や物も同じように大事にしよう。」と思うようになりました。あの旅行で、私はあらためて大事なことに気づいたのです。

修学旅行は中学校生活の行事の一つで、他の人にとっては、単なる一つの出来事かもしれませんが、でも私達にとって、この四日間は単なる出来事では収まりません。この旅行はきっと、これからずっとと私達の将来の支えとなり、翼となるでしょうから。

受 賞 一 覧

平成
7 年 度

栄 誉 を 讃 え て

この一年の
軌 跡

体育行事

《函館市中体連競技大会》

*陸上

〔男子〕

一年一五〇〇M 第五位 荒木田 保

二年一五〇〇M 第三位 大内 太郎

三年八〇〇M 第五位 友田 聡史

〔女子〕

一年一〇〇M 第八位 佃 晶絵

三年八〇〇M 第四位 松行 麻里

三年一五〇〇M 第六位 松行 麻里

三種競技B 第八位 大野まり子

J四〇〇MR 第七位 下田 倫子

佃 晶絵

根本 美佐

石塚 香理

信田 真希

《函館市中学校体育大会総合競技大会》

*卓球

団体

個人

優勝（渡島大会出場）

優勝 山崎 修司

準優勝 小 栗明

第三位 石黒 大貴

第四位 長谷川孝治

*バスケット

第三位 女子

《中体連水泳大会》

*水泳

一〇〇M平泳ぎ 第二位 黒田 真也

二〇〇M平泳ぎ 第一位 黒田 真也

《新人戦》

*野球

優勝 野球部

中 稜 五 年度7平成

文化行事

《函館市青少年芸術教育奨励事業》

- ・書部門 佳作 柏 槇子
- ・音楽部門 入選 高田 幸昌

《青少年読書感想文コンクール》

- ・優秀賞 小橋沙織

《市民憲章児童生徒絵画・書道展》

- ・銀賞 金子美貴
- ・銅賞 信田真希

《渡島地区少年の主張大会》

- ・優良賞 河合美里

《奎星会書道コンクール》

- ・秀作 金子みき

《消費生活ポスターコンクール》

- ・入賞

井岸 敬貴
小倉みや子
小柳なつみ
金子めぐみ
須藤 輝子

《函館市環境壁新聞コンテスト》

- ・優秀賞

佐藤 卓他
長内 崇
鈴木美津実
山下 春美
蝦名あゆみ
千田 智弘
佐藤 裕介
市島加奈子

《青少年読書感想文コンクール》

- ・入選

小橋 沙織

《道南吹奏楽コンクール》

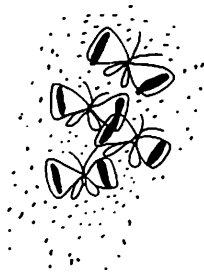
- ・銀賞

吹奏楽部

《NHK合唱コンクール》

- ・銅賞

合唱部



学級プロフィール

1・2年



一年A組

積極性は我らの誇り

松山 元彦 先生

一年A組は、ふだんはともうるさくて、いつも先生に注意されています。しかし、研究授業や文化祭などでは、クラス全員が団結し、すばらしい力を発揮します。その証拠に、クラスの壁には、たくさんさんの賞状が並んでいます。文化祭での合唱コンクールでは銀賞など、本当にすばらしい成績が並んでいます。けど、A組の長所はこの他のところでもよく目立って見えます。それは、授業中とても積極的だということです。発表も、なるべく多くの人ができるようにと、クラス全員が毎日、毎日、積極的に取り組んでいます。私はとても活発なクラスだとして、とてもいいことだと思っています。こんなA組だけれど、やはり短所もたくさんあります。いざというときは、チームワークよくがんばれるのですが、いつもはクラス全員がバラバラになってしまいます。人の話をきかなかったり、勝手な行動をとったりと様々です。でも、特に松山先生が注意していることは、「いじめ」に対してです。近頃、よくいじめられて自殺した中学生の話がありますが、A組ではそういう話はまだないようです。だけど、いつ起こるかわかりません。

これからの課題は、いじめをしない、もしいじめをみたりしたら無視しないということです。もうこれ以上、松山先生の寿命を縮めたりしないように、一年A組生徒一同は日々、努力を重ねています。

(村川 理恵 記)



一年B組

ガンバルことは 大きな力

中谷 満 先生

私達一年B組は、男子二十二名、女子十八名のとても明るく元気なクラスです。明るく元気なことはいいいことなのですが授業中騒がしくなることもよくあることです。こんな明るく元気なこのクラスでも入学した当時はみんな授業中は真剣で「シャキッ」としていたのでやっぱり中学生はちがうなと感心したほどです。その頃から比べるとちょっとだらけてきたなというのがこの頃感じられます。

担任の中谷先生は、見た目とても厳しそうなので入学したときはとても不安になりました。しかし、中谷先生は、厳しいときもあるけどとても明るくて優しい、いい先生です。そして合唱コンクールなどの大会の時もとても熱心に手伝ってくれたので私達のクラスには、合唱コンクール優勝の賞状と球技大会優勝の賞状があります。そして、私達もいざというときには団結し協力し合ういいところもあります。それと反対に授業中に少し騒がしくなったり、忘れ物が少し多かったりと悪いところもあります。この欠点を一人一人どう頑張ってなおしていくかで差がついてくるのです。そしてこれから二年生になる私達一人一人の課題なのです。

さて、私達もあとわずかです二年生になります。今までの欠点を改めるチャンスです。このチャンスをのがさないためにも今から二年生になるという意識を持ち、誰からも認められる二年生になりたいですね。

(水野 盟子 記)



一年C組

“努力”がクラスを変える

成田 牧 先生

私達一年C組は、男子二十一名、女子十九名の、いつも明るく、静かにすることをしらないクラスです。

入学当時は、みんな緊張していたせいか、授業中は静かで、先生方に注意されることは、あまりありませんでした。今では、前にくらべて授業中うるさくなることが多くなって、たびたび先生方におこられます。

でも、C組は、静かにすることを知らないだけのクラスではありません。文化面では、あまり成果は出てませんが、運動系イベントでは、活躍する人も多く、賞状もいっぱいもらっています。

それから、学習面においては、授業態度はあまりいいとはいえませんが、努力家が多く、「毎日こつこつやっていけば、今成績が悪くても、後で必ず成績はよくなっていく。」という先生の言葉を信じて、勉強している人も少なくないと思います。テストの結果も、上がっている人の方が多く、先生方からも、「C組は、がんばる人が多い。」とほめられます。

担任の成田牧先生は、クラスを持つことが初めての先生で、明るく根気強い、いい先生です。また、やさしく、ときにはおこりまくることもあります。生徒のことを一番に考えてくれて、何か困った時の相談相手には、もってこいの先生です。

これからは、成田先生が言うように、「思いやり」の気持ちを持って、楽しい中学校生活を送れるように、がんばっていきたいです。

(齊藤 恭子 記)



一年D組

短所を生かす

杉山 春吉 先生

私達一年D組は、全生徒三十九人の、明るいクラスです。入学時は、みんな緊張して、あまり話し声のないクラスでしたが、今では休み時間は話し声や笑い声でいっぱいです。

さて、私達の担任の杉山先生は、一学期に病気にかなり、何カ月も学校を休まりました。入学して間もない私達は、まだ不安も残っているのに、このような事になり、心配でした。でも、副担任の高橋先生が、このクラスの為に、いろいろな力を尽くしてくれたおかげで、ここまでくることができました。それに、私達のクラスは明るいのが取りえなので、その元気で、先生が入院された数カ月間、乗り切ってきました。十二月一日には、待望の杉山先生がもどって、まとまりが出てきました。

こう見てみると、私達のクラスは長所のかたまりに見えますが、明るく元気のあるクラスの為、静まる事を知らないで、たまに、先生方に注意される事があります。まあ、これくらい元気があった方がいいと、私は樂觀的に見ています。なぜなら、明るいということが、最大の短所でもあるし、また、最大の長所でもあるからです。これが、ただの短所になるか、長所になるかは、これからの私達の努力で決まると思います。

今年一年間、私達の一年D組は良い事、悪い事、いろいろありました。もうすぐ私達は、二年生になって、下の一年生を見る立場になります。私達は、いつまでも良い生徒でありたいと思います。

(大塚 洋明 記)



二年A組

底力は、努力の結果

信田 博之 先生

「やればできる」私達はいつも、その言葉を胸にして一年間を過ごしてきました。皆さんから見ると、よくある言葉の内の一つしか思えないかもしれませんが、私達にとってはとても大切な言葉なのです。その証拠として、我が二年A組のこれまでの成績を見てもらえばわかります。校内体育大会優勝、合唱コンクール金賞受賞と球技大会をぬかせば何れも素晴らしい成績ばかりです。そんな、ちょっとうるさくとも素晴らしい二年A組・・・の担任の先生はというと、これもまた熱心で楽しい信田先生なのです。もとはといえば、「やればできる」という言葉は、信田先生がよく言う言葉なのです。しかし、何においてもスゴイ!!という二年A組にも短所はあります。その短所とは・・・騒ぎ出すと止まらないという事です。この現象が起きるのは、給食前や、5、6時間目の授業が終わり、帰りの会までのほんのちよとの時間なのです。それを止める必殺技は・・・という、それが先生がたたく手の音なのです。なぜかその音が教室中に鳴り響くと、みんなは席に着いて、おしやべりをやめるのです。これで少しは二年A組についてわかったでしょうか。さて、それではこの辺でクラスの皆の事についてお話ししましょう。このクラスの一人一人は私から見ると、優しくて笑顔がたえない、とてもいい人ばかりだと思います。

これから、このメンバーで過ごす残りの日を一日一日大切にしよう。よりよいクラスができるようがんばっていきましょうと思います。

(三上 暁子 記)



二年B組

二年B組とは？

萩野 雅彦 先生

二年B組は、男子十六人、女子二十人の計三十六人のごく普通のクラスに見えます。でも本当に普通かといえは、そうではありません。授業中は、何人かの人の私話がめだち、先生によく注意されます。また、あつてはならないことですが、とても気持ちよさそうにいびきをかいて寝ている人もいます。そして、休み時間は、授業時間とは違って、とてもにぎやかで楽しくいじめがありません。これは、学級目標の一つにある「いじめ、けんかのない学級」に当てはまっています。

皆で協力をした文化祭の合唱コンクール、結果は賞には入れませんでした。練習不足だったのかもしれませんが、最後まで一生懸命やったので、それはそれで良かったと思います。

もう一つの学級目標に「積極的に取り組む学級」と書いてあります。この学級紹介を書くにあたって、クラスの皆にどんな学級かとアンケートをとりましたが、その中には「積極的」と言う言葉はでてきませんでした。確かに積極的ではないかも・・・でも一つだけ、委員を決める時だけはすぐ決まって、積極性のあるところを見せました。こんな二年B組を支えてくれている萩野先生は、とても優しく、生徒のことを良く考えてくれるいい先生ですが、怒ると説教が長く、そして先生の顔はとても真剣に皆を怒ります。でもそれは先生が生徒に対する思いやりだと思います。

これから、クラス全員で、良い点を増やしていきたいです。

(伊藤さやか 記)



二年C組

「良いクラス」

大村 俊幸 先生

大村先生率いる二年C組は男子十七人、女子十九人の合計三十六人で構成されています。

このクラスの目標は「協力し合うクラス」「いじめのないクラス」「けじめのあるクラス」、そしてこの三つも含めた我がクラスの最大目標、それは「良いクラス」です。この目標は単純ながら、とても重要で意味深くそして覚えやすいとても良い目標だと思います。

次にクラスの特徴です。2・1・Cの特徴は大きく分けると三つあります。一つ目に「うるさい」というのがあげられます。これは良い面であり悪い面でもあります。休み時間になるとたちまちクラスはうるさくなり、うるさい人の種類もしゃべる人、さわぐ人、歌う人、叫ぶ人がいます。それはクラスが明るくなり良い事なのですが、授業中にもしゃべる人がいるのが欠点です。二つ目は「とてもインパクトが強い」事です。一人一人がとても個性的なのでクラス全体にも異様な雰囲気が出だっています。しかしそのせいか団結力に欠けるため、文化祭・体育大会で実力を出しきれずに終わった事もあります。また担任の大村先生も真面目で何事にも熱心な所がとても个性的です。そして三つ目はとても「良いクラス」という事です。

この通り、二年C組は目標がそのまま特徴になっているのです。しかし「良いクラス」というには少し直さなければいけない部分があります。残り数ヶ月(現在十二月下旬)で二年C組は完璧な「良いクラス」になるよう頑張ろうと思います。(塩谷 光広 記)



2年D組

2年D組のゆかいな仲間達

岩崎 鶴好 先生

二年D組は、男子十七名女子十八名の計三十五名で構成されています。明るく楽しいクラスですが、はじめが少し足りないという欠点もあります。二年D組は、二年生全クラスで一番騒がしく、授業中の私語が絶えませんが、それはみんなの仲が良いという証拠でもあります。

私達の普段の生活態度を見ると、緊張感が足りずボケっとな毎日を過ごしている人が大半です。先進国日本に生まれた私達の「幸せボケ」だと思います。これと比較して発展途上国の人々は、「内戦・飢餓・病気」という問題があり、毎日を生きるのが精一杯です。「衣・食・住」に困らない私達の生活は、いかに大切に幸福であるかがわかります。

岩崎先生は、何事にもつけても熱心で一生懸命です。D組の一年間の行事を、ほとんど支配していたと言っても過言ではありません。特に印象に残ったのは、文化祭の合唱コンクールです。毎日毎日、帰りの会で、自由曲の歌を聞き、夢に「ボブラの木には♪」と、ボブラの木が出てきたことも度々ありました。結果は、おしくも銀賞でしたが、みんなで精一杯打ち込むことができて、悔いはないと思います。

これから、もう少しで三年生になります。クラスがえがあってもなくても、まわりの環境に左右されず、みんな一人一人のすばらしい所をフルに生かし、楽しい生活を送れることを願っています。残りの二年生の期間を、楽しい思い出でうめましょう。(久留利愛日記)



宿泊研修旅行記



宿泊研修を終えて

2年B組 伊藤 さやか

宿泊研修が終わって一番心に残っていることは自主研修をやったことです。私達の班は、「寺・神社のつくり」、「神社の神様を調べる」という計画を立てました。実際に寺や神社に行ってみると、全然調べることができず、寺や神社の写真を撮るだけでした。それでも、時間内で行ってみようと思っていたすべての寺や神社を見学することができ、けっこう楽しかったです。また、職員との親しみもグッと増したように感じました。また、二日目に行ったワールド牧場の巨大メイズも楽しかったです。何回も同じ所を走り回って、初めは時間内にゴールできるか心配だったけど、きちんとゴールできたのでうれしかったです。

私はこの二日間の短い宿泊研修の中で色々な体験をし、色々なことを学びました。私達は一年生の時、三泊四日の自然教室を体験しましたが、そのころよりすごく成長したと思います。自然教室の時は先生に注意されてばかりでした。でも今回の宿泊研修はあまり注意もなく、一年生のころよりも楽しく二日間を過ごせたと思います。

「楽しい旅行にする」ためには、「約束を守ってけじめのある行動をする」「集団行動なのだから周りに迷惑をかけない」ことがやはり大切だと感じました。

自分自身の宿泊研修

2年C組 塩谷光広

二年になってまもなく一泊二日、江差への宿泊研修が行われました。

一年の時、自然教室という三泊四日の校外学習がありいろいろな所を見学したりいろいろな事を体験したりと、とてもためになる学習でした。

しかし僕は自然教室の目的をよく理解できずにただやりたい事を勝手にやって、自分が満足できればそれでいい、そんな感じでこの自然教室が終わってしまったような感じがしていました。

そして今回の宿泊研修も始まるまではそんな風な感じでまた終わってしまおうと思いました。

でも江差に着いて行事をこなしているうちにだんだん自分は何をすればいいのかがわかりました。

一日目は開陽丸を見学したり、町内を自主研修したりして、江差の歴史・生活・文化などについて知る事ができ、それより江差の町はどういう所なのかを実感する事ができたのが良かったです。

二日目の巨大メイズや昆布館見学も目的に合うように行動できたと思います。

三年生の修学旅行にも言える事だと思いますが、こういう事の目的は団体行動でのマナーを守って、自分自身がくい残らないように自分の目標をもって行動する事だと思います。

宿泊研修は自分にとってとても良いものになりました。

「みんなと過ごした一泊二日」

2年D組 久留利愛弓

一泊二日という短い間だったけれど、二日も楽しかった。一日目、特に印象に残ったのは、昼食をとったことと、追分を見学したことである。昼食は、他の組の人とも食べ、八人で食べた。みんな話をしたり、おかしを食べたりして、とても楽しかった。

追分を聞いている時、場所がせまく、むし暑かったせいか、みんなあまり集中してなかった。追分を聞き、トイレをでた後に、誰かに足をかけられ、もう少しで転ぶところだった。気分がさえずなく、ボーッとしていた私には、ちょうどよい目覚ましになった。その後、自主研修をしたが、見学するところが少なく残念だった。

ホテルに着いてから、入浴をした。露天風呂は最高に良かった。この時、生きて良かったとしみじみ思い、幸せな気持ちになれた。

二日目、巨大メイズを体験したが、予想以上に難しく、ズルを何度かしてしまったのは、残念だったけれど、四つのスタンプにたどり着くことができて良かった。昆布館のスクリーンで上演された、昆布の成長の仕方はとてもおもしろかった。

全体を通して、みんなにとって良い研修になったのではないかな。ケガも事故もなく良かった。宿泊研修のねらいは何だろうか。他の地域の特色について学ぶことだろうか。それとも、集団生活の大切さを学ぶことだろうか。一番の目的は、みんなが楽しく過ごし、友情の輪を広げることではないだろうか。色々な活動や見学をして、人の気持ちについて学ぶことができて良かったと思う。

特集・ボランティア体験記



ボランティア体験学習で学んだこと

池田 慎太郎

ボランティア体験学習に参加できたことは本当によかったと思っています。今まで自分はお年寄りのかたや障害もっているかたを、自分とは違うという差別的な目で見ていたためか、老人ホームに行くことを敬遠しあまりやる気がなかった。そのような感情が先行してしまっているなかで人を思いやることの得意な自分に、お年寄りに不快感をあたえないようにすることができながすごく不安でしたが、実際に参加してみると以外に簡単に接することができたのでよかったと思います。

また、車イスの介助や食事介助などのふだんは体験できないような体験をすることができ、老人ホームや介護施設・介護者の必要性をお年寄りや障害をもつかたへの介護の重要性を知り、それについていろいろと考えるようになりました。

現在、日本では年々高齢化がすすみ高齢化社会がおとずれようとしている。高齢化社会がおとずれということはお年寄りが増え、老人ホームなどが必要になるということになります。

老人ホームなどの建設はお金をだせばなんとかなると思いますが問題となるのが、お年寄りを介護する人材をどのようにして集めるかだと思っています。今回ボランティア体験学習に参加してわかったのですが、食事介助や入浴介助などは、かなりの重労働のため高齢者社会がおとずれようとしているのにもかかわらず、看護婦などと同じ様に介護者の数が減ってきているということです。

我々が成人し世の中のでいく二十一世紀には、高齢化社会のまっただなかだと思っています。そのため今からボランティアに目を向け関心をもつことが重要になると思います。

今後このボランティア体験学習に参加した経験をいかして、福祉活動に間接的にでも関わっていききたいと思っています。

ボランティア体験学習をつうじて、介護の重要さや大変さ学ぶことができたので参加して本当によかったと思います。

ボランティア活動に参加して

葛 葉 洋 平

ボランティア体験学習に参加して本当によかったと思います。最初は、老人ホームに行くのがめんどくさく、はっきり言って、あまりやりたくありませんでした。しかし、三日間参加してみても、いろいろな普段しないようなことをし、この体験で多くのことを学びました。三日間の活動の中で参加者全員で遊んだり、あいせん祭りという、ホームで毎年行われている行事にも参加し、他校の生徒とも楽しくやっていけたのでよかったです。

この体験を通して、僕は、いろいろな考えました。その中で、特に考えたことは、老人ホームの大切さについてです。

現在、日本にどのくらいの老人ホームがあるのかわかりませんが、これからは、高齢化社会になるとテレビや新聞等で耳にしました。高齢化社会になるということは、やはり、老人ホームが必要になると思います。老人の中には、介護が必要な人がたくさんいます。すると一つ問題が出てきます。

それは、介護をする人たちの問題です。

自分も三日間経験してみても、介護することは、かなり大変で難しい仕事です。そのせいか、介護する人は減っていると聞きました。このように、老人ホームの建設するとなると様々な問題が生じることがわかります。そのような社会の中で現在建設されてある老人ホー

ムは大変貴重なもののだとあらためて感じました。

この体験を通して、老人とふれあい、様々なことを知り、いろいろなことについて考えられて、今思うと本当に僕はこの三日間のボランティア体験学習に参加できてよかったと思います。

また、来年は受験勉強で忙しいかもしれませんが、必ずこの行事に参加したいと思っています。来年は今年より、もっと老人とふれあい福祉のことについても、もっと考えていこうと思います。それからこの三日間で車いすの操作の仕方もおぼえることができたので、もしも道路等で車いすに乗った人に会って困っていた時には、積極的に声をかけて、手伝いたいと思います。最後にこの行事を紹介して下さった内木先生、貴重な経験をありがとうございました。

新鮮な感動を与えてくれた三日間

亀 井 美 佳

私は、ボランティア活動というものに、今まで一度も参加したことがありませんでした。ある時用事があって、職員室に行くとき突然内木先生に「この行事に参加してみないかい。」と言われました。この行事の主な内容は老人ホームの入居者の方々との交流、介助、「あいせん祭り」の準備、実施等で、このようなことは経験したことがなかったもので、その時はお断りしましたが、「ゆっくりと考えてみなさい。」と言われ、考えた末に行くことを決意したのです。が、行くとは決めたものの、行ったことのない老人ホームへ行き、何をしたらよいのか。言われた仕事は、きちんとできるのだろうか。などとても不安になりました。でも、誰にでも初めての経験というものはあるんだし、私がこれから生きていく中で、絶対、必要になるはずだから、がんばるんだと自分で自分に言いかけ、思い切っ

て行きました。

老人ホームに行つてからは、もう何もかもが初めての体験をするものばかりで、ある意味でとてもショックを受けましたが、それ以上に感動しました。一度も触れたことのない車いすの操作の仕方を習ったとたんに、早速押して歩いたり、病室を一部屋ずつまわつて、ほんの少しだけでしたが、お年寄りとお話しもしました。会話が弾んだのは本当にごくわずかでしたが、家族以外のお年寄りと触れあふ機会なんてほとんどなかったので、とても感動しました。また、私は残念ながら経験することができませんでしたが、食事の介助を行つた人もいたようでした。もし、今後このような機会があつた時には、ぜひやってみたいと思います。

私は、この行事に参加することによって、ボランティアに対する考え方が変わり、社会福祉についてなどいろいろ興味を持つことができました。もし、これから機会があつたら、老人の介助だけでなく、いろいろな形のボランティア活動に参加していきたいと思います。あの三日間の大変貴重な経験を、今後生きていくなかで、少しでも活用していきたいと強く感じました。

ボランティア活動の大切さを感じて

下田 倫子

私がこのワークキャンプに参加した理由は、先生に勧められたからとボランティア活動に少し興味があつたからです。私はワークキャンプに参加するのは初めてで、何をするのか、どんなことをしなければならぬかなど何も知らないかつたのでとても不安でした。来る前は部活などもあつてあわただしかつたので不安を忘れていた。でも、いざ着いてみると緊張で胸が一杯になりました。説明を聞いて

いる時や、自己紹介の自分の順番が回ってくる時などとても緊張していました。でも生徒会の2年生の人達がいてくれたおかげで少し安心しました。時間がたつにつれて緊張も少しずつ取れていきました。私は、老人ホームに来るのは初めてでした。この愛泉寮は明るい感じでとてもほのぼのしているという印象をうけました。

2日目はお祭りの準備をみんなで協力してやり、ぐじなどの店を手伝つたりどれも初体験のことばかりで手なれない部分が多かつたですが、とても楽しいお祭りでした。自分が想像していたお祭りよりもずっとにぎやかでした。一番このあいせん祭が心に残っています。他の学校の人も時間もたつにつれて仲良くなりました。みんなといろいろ話をして過ごした夜もとても楽しかつたです。お年寄りとの交流会でのゲームなどもおもしろかつたです。私は初対面の人やなれない人と話をしたりするのが少しにがてで、お年寄りとう接していいのかわからず初めはただギクシャクしていました。でも、少しなれていくとさんは話しかけることはできなかつたけれど、一生懸命がんばりました。とてもいい勉強になりました。どれも初めてすることはかりの経験で心配や緊張もたくさんしました。でも、今ワークキャンプに参加したことをとてもうれしく思います。お年寄りとは楽しくふれ合うことができたし、とてもいい人達と知り合うことができて感謝しています。このワークキャンプに参加したことで、社会福祉にも関心を持つことができたし、ボランティア活動などにも積極的に参加しようと思うようになりました。

文苑

三年間の思い出

三年A組 山崎 美代子

三年間の思い出といつて一番最初に思い出するのが部活です。私は二年生の時から吹奏楽部に入ってサクスを吹いてきました。最初は音を出すだけでも大変でした。でも、いつのまにか出せなかった音を出せるようになり、曲を吹けるところまでできた時は、本当に言葉では言いあらわせないほどうれしかったです。そして、初めての吹奏楽祭、コンクール、ソロなど、いろんな体験をすることができました。部活の仲間にもめぐまれ、なぐに打ちとけることができました。文化祭では、何曲もの曲を演奏することができて、ステージから

降りた時は、みんな心の底から感動しました。今は引退していますが、一、二年生の練習を見に行くことがあります。その時、一、二年生は、温かい笑顔で迎えてくれて、三学期には、私達三年生のためにお別れ会までしてくれると言うのです。

私は思いました。吹奏楽部の部員はみんな強いきずなでつながっているなあと。そうです。それくらい強いものがなければ、いい演奏はできません。過去何度か、みんなで演奏中に、とても感動して泣きそうになった時があります。とてもきれいなハーモニーで音が一つになった時、その時私は泣きたかったです。自分たちの力で、このきれいな音を出しているのだと思うとふるえが止まりませんでした。

このように、私の部活への思いは、とどまるところを知らず、何よりも大切な思い出となっているのです。自分が努力して作り上げた音。これこそが私の三年間の中で一番の宝物です。今はもう、その音は出せないけれど、私の心の中にはいつもあの時の音がひびいています。

中学校生活もあと少し。これからは勉強、勉強で追われる日が続くけれど、たまには後輩の作り出している音を聞きに行くのもいい

かなと思う今日このごろです。

中学三年間の思い出

三年C組 高橋 克和

中学校生活三年間の思い出といえば、やはり三年間続ける事が出来た、野球部の事だと思ふ。特に三年生の中体連野球大会は忘れる事は出来ない。

五校中は、二回戦で湯の川中と対戦した。昨年、先輩達も同じ湯の川中に負けたので、絶対勝ちたかった。

この試合、僕は六番、ライトでスタメン出場し、二打席目に左中間へエンタイトルツーベースを打った。打った瞬間手がたえがあり、快心の一打だった。

僕にとっては最高の気持ちだったけれど、五校中は惜しくも負けた。ゲームセットが告げられても、僕は泣かなかった。負けても涙は流さないと心に決めていた。何故なら、いつも試合前に満足の行く野球が出来るように、心に決めていたからだ。

しかし、悔しかった。今までの長く、苦しく、つらかった三年間の練習から解放される気持ちと、五校中のユニフォームを二度と着る事が出来ないさびしさが、頭の中をぐるぐる回っ

ていた。

そんな時、家で両親に「三年間がんばったね。」と言われて、自然に涙が出てきた。

振り返ってみれば、一年生の時、野球部への入部希望を家で話した時、少年野球の経験のない僕に、父も母も「大丈夫?」「続けられるのか。」と心配していた。しかし僕は自分で決めた以上、勉強と部活の両立をと、がんばってきた。

野球に打ち込んだ生活が、今日で終わったと思った。

五稜中で一番の思い出を残せた野球部。監督として指導してくれた、古館先生、杉山先生、後藤先生と、チームメイト、先輩にお礼を言いたいと思う。また後輩達にも、野球部にいたのが一番の思い出といえるチームを作って欲しいと願っている。



中学校生活を振り返って

三年D組 新 あやか

この五稜中に入學してきた時は、「勉強をがんばろう」と思っていました。一年生の一学期は、一生懸命がんばりましたが、二学期に入ると、授業中ただボケーとしていただけでした。それで私は「二年生こそ絶対がんばる」と決めたのに、どんどん日がたつにつれて、悪い方悪い方に進んでしまいました。

でも、二年生の三学期、私の頭の中に、一つの言葉が浮かびました。それは「受験」という言葉でした。それから私は、一生懸命勉強しました。そして、二年生の三学期では、何教科か成績を上げることができました。

三年生になってからは、今まで以上にがんばりました。友達に「あやか、すごくまじめになったね。」とか「すごくがんばっているね。」と言われた時は、友達にも認めてもらえたということで、とてもうれしい気持ちになりました。

私も、勉強に対する自信というか、「私だって、努力すればできるんだ。」という自信ができました。今では「一年生の時から、ちゃんと勉強しておけばよかった。もう一度始め

からやり直したい。」と後悔しています。でも、ここまでできたのは、いろいろな先生のおかげだと私は思っています。

あと、中学校生活を振り返って、思いつくのは部活動のことです。

はじめ私は、一年生の時、バスケット部だったのですが、二年生の時に、音楽の方が私に合っていると思い、吹奏楽部に入りました。二年生の時は、楽しく感じないで、部活の時間を過ごしていました。でも三年生になってからは、とても楽しくなり、毎日「早く部活の時間にならないかなあ。」とっていました。

コンクールに出たり、文化祭ではみんなの前に出て発表し、泣いたり、笑ったり、踊ったりと、とても楽しい部活の時間を過ごすことができました。今は、吹奏楽部に入ったことを後悔していません。



「二十四の瞳」を読んで

二年A組 工藤 恵子

今は、いつも洋服を着て、自転車もあたりのように乗れて、学校から帰れば、友達と遊びに行ったり、塾や習い事に行ったり、テレビを見たり。毎日、遊ぶひまもなく、弟や妹の世話をしなくてはならないとか、次の日に履くわらのぞうりを作るなんてことはない。それが、普通の生活になっている。洋服を着て自転車に乗った若い女の先生が来ただけで動揺してしまう、物がなにもない時代に比べると、便利、快適という点では今のほうがすぐれていると言えらると思う。だから、私自身、昔よりは今に生まれてよかったと思っている。

けれど、自分の家の周りを見回して、気づいたことがあった。隣近所に住んでいる人とかかわりがなくなってきたのである。このことについて、私は初め、他人事のようにならぬが、去年、家庭科で、「近所とかかわり」について調べてみると、目と鼻の先にありながら、その家は、何人家族で、どんな人が住んでいるのかなど、全くわからない家が、数軒あった。近所づき合いのある

家が、ないわけでもないけれど、つき合いのない家がある。十年以上も前から、私にはこの場所からあつたのに、何と知らずに生活してきたなんて情けないような気がする。これでは、決して良いなんて言えない。それどころか、不思議に、つめたさを感じる。

それに比べると昔はなんてあたたかい時代だったのだろう。近所づき合いどころか、村全体で一つの家庭のように、お互いを認めあっている。このことは、一見あつてもなくても同じことのように思えるけれど、人は一人じゃ生きていけない。だから、もしかすると、便利よりも快適よりも人間にとって大切なことなのかもしれない、と思った。

それがどうして粉々に砕かれてしまったのだろう。一体誰がこの平和を壊すことを許したのだろう。私は、「戦争を知らない若者達」の中の一人で、当然ながら、家族を戦争で亡くしたり、防空こうにたてこもったりした経験はない。だから、テレビや教科書で当時の様子を知ることがあつても、あまりのすごさに、信じられないときがある。でもそれが、本当に実際に、昔あつたことなの悲しい。「人はなんのために子を産み、愛し、育てる

のだろう。砲弾にうたれ、さけて砕けて散るだけの人のいのちというのを惜しみ悲しみとどめることがどうしてしてはならないことなのだろう。」この言葉にすこく心を打たれた。けれど当時は、この言葉を口に出して言うことさえ、許されなかったのだ。家族が戦死しても喜ばなくてはならなかったのだ。宇宙から宇宙人が来て、こんなことをしたわけじゃない。なぜ地球人が地球人を……。たくさん人が死んで、たくさん人が悲しみ、涙を流し、たくさん人の心に、深い傷が残され、たくさん大切なものが消えてしまつて……。それで得たものは何だったのだろう。こんなにたくさんものものに代えられるものが、この世にあつたのだろうか。二十四のうち八つの瞳をなくしたことに、何の価値があつたのだろうか。

今年は敗戦から五十年。各地で、それに因するイベントなどが行われているが、私はまだ、戦争について、知らないことがたくさんある。それでもこんなに戦争が嫌いだ。便利じゃなくても、快適じゃなくても、少しくらい人とのつき合いが薄れていても、永久に平和でなければいけない。戦争だけはしてはいけないと思う。世界中の人が、そう思える日がくればいいと思う。

戦争と平和

二年C組 亀井美佳

なげけるか いかれるか はたもだせるか
きけ はてしなきわだつみのこえ

この短歌は、「きけ わだつみのこえ」日本戦没学生の手記」の最初の一ページ目にかいてありました。今年は、戦後五十年ということで、テレビでも特別番組や戦争のドラマ化、映画化等がさかに行われていました。が、その中で、私は一つの映画を見ました。それは、「きけ わだつみのこえ」の本をもとに作られた「きけ、わだつみの声」という映画です。その前に上映されていた「ひめゆりの塔」も本当は観たかったのですが、都合が合わず、わだつみだけを観ることになりました。

観ていた私は、涙をこらえることができませんでした。そしてそれと同時に日本政府に対して怒りがわいてきました。なぜ、命を簡単に奪ったり、捨てさせたりするか。なぜ、軍勢力もおとろえかけてきていた時にわざわざ戦争をしかけたのか。結果は見えていたはずなのに……。一体、多くの命とお金を費して

まで戦争をして、何をすることができたのだろうか。一般の国民が飢え、苦しみながら戦争に勝つことを希望として生活していた時、政府の役人や資本家は何をしていたのだろうか。自分さえよければいい。そんな利己的な考えで毎日を不自由なく暮らしていたのでしよう。そんなことで社会が成り立つわけがありません。第二次世界大戦をする前から戦争をするたびに、きつと大日本帝国は転落の道を歩んでいったのだと私は思いました。

「お国のために頑張ります。」「お国のために死になさい。」息子が出征することを喜び祝福する親。出征することを誇りに思う息子。親にしても子にしても戦争に行くことを心底喜ぶ人なんて誰もいなかったはずですよ。

この「きけ わだつみのこえ」の本の方には、その学徒兵たちの真実がかかれています。学徒兵たちが見た戦場の狂った様子。死にたくないと思う本当の気持ち。読んで行けばいく程政府に対する怒りと戦死した人達への悲しみがこみ上げてきます。

もう、二度と戦争はしない。核兵器を持たない。と憲法第九条にしろされていますが、少し前に、この第九条の見直しという声もあがったことがあります。また、日本が戦争をしていなくても、他の国々では、争いが

絶えません。さらに、他の国の戦争をテレビで実況中継として伝えるということまでをしてしまうのですから、もう、何があってもおかしくない世の中だと思わせてしまうということでも恐ろしいこともあります。

この間、たまたま戦争とは関係のないビデオを観ていたら、こんなことを言っていました。「戦争とは、悪と悪との戦いではない。正義と正義との戦いである。どちらも自分が正しいと思うから戦争をするのだ。全世界の全人類が同じものに共感を抱き、同じ考えをしない限り、争いはなくならない。」と。私は、確かにみんな同じ考えだったら争いはないなと思いました。でも、現実には、みんな一人一人、違った考えをきちんと持っています。ただ、その自分の考えばかりを押しつけるのではなく、相手の考えもきちんと聞き、よく考え、その上で押すところは押して、引くところは引く、人間一人一人が少しずつ我慢することによって、平和とは保たれているものだと思います。

最後に、本や映画を観て、今、私にできることは、戦争では亡くなられた方々の冥福を祈って、一分一秒でも大切に生きていくことだと思いました。

第41回青少年読書感想文コンクール
函館地区優秀賞受賞・全道大会入賞作品

「ビルマの豎琴」を読んで

一年D組 小橋 沙織

私は、この本を読んでみて、主人公の事を
なんてすばらしい人なんだろうと思いました。
この人は一人で、ビルマ中を歩き続けて、日
本兵の遺体をまいそうしつづけました。今ま
では、この水島さんも、こんな事を考えたこ
とはなかったのではないかと思います。仲間
に会いに行くのに夢中で、見て見ぬふりをし
て歩きつづけてしまった、たくさんの日本兵
の遺体をそのままにして歩きつづけることは
水島さんにはできなかったんだと思います。
それは、この人が誠実で、やさしい人だった
からだだと思います。

心の中でなんどもなんども「万一にも国に
帰れる日があったら、一人もれなく日本に帰っ
て再建のためにはたらこう」

と隊長の言った言葉が、くりかえされたと思
います。とてもくるしくてやりきれない思い
をしたと思います。でも、水島さんは、日本
へ帰る事がどうしてもできなかった。それは
イギリス人が、イギリスの病院で亡くなった

日本兵をまいそうして、さんび歌を歌ってい
るのを見たからです。異国人がこういう事を
してくれているのに、そのまま見すてて立ち
去った事はずかしく思ったからでしょう。
そして、一日も早く日本兵たちを、ほうむっ
てあげるといふ任務を果そうと思ったのだと
思います。それから水島さんは、ビルマ中の
日本兵をまいそうしはじめます。最後には、
本当のビルマの僧になり、ビルマ人として、
一生ビルマをはなれることはないと思います。
この仕事は、この人だからやることができた
のだと思います。そして、たくさんの不幸な
霊をなぐさめたのだと私は思っています。水
島さんは、こんなにたくさんのかわいそうな
人々をおいて、日本へ帰ることができなかった
のだと思います。水島さんの心の中では、
本当は戦争などしたくなかったんだと思いま
す。だから、他の部隊の所へ行って、

「もう戦争は終わったんだ。こんな戦いは無
意味だ」と力強く言えんだと思う。でも、
この人たちは、まちがいに気付かないうちに
死んでしましました。水島さんは、くやし
くしかたなかったんじゃないかと思ひます。
その時私は、戦争はおそろしいことだとあら
ためて感じました。人や物をはかいするだけ
ではなく、人の心のやさしさをかえてしまひ

ました。やさしさがあった人も、勝つ事しか
考えられなくなってしまう人もいます。

「お国のためだ」といって死ぬことを正し
いと思ってしまふ人もいます。でも水島さん
の隊の人はちがいました。合唱すること、で、
気をまぎらし、苦しい時や悲しい時にこらえ
てきました。そして、みんなが、安心して歌
を歌う事ができる世界になったらいいと願っ
ていました。その合唱での協力の心で水島さ
ん一人をおいて、日本へ帰ることをとても悲
しい気持ちでいたんだと思います。しかし、
水島さんの固い決意にみんなは反対しませ
んでした。それは、水島さんがまちがった事
をしたと思った人がいなかったからだと思います。
この人は、だれにもまねできないような
ことをやりとげました。それにみんなは賛成
してくれました。私は、すばらしいことだ
なあと私は感心しました。正しい事は正しい、
悪い事は悪いと、言える人どうしが、本当の
仲間なんだということ気付きました。この隊
の人たちは、みんな、一生これから会う事
がなくても、一生の仲間なんだと思います。私
はこんな仲間を作ることができたら、すこ
いいいなあと思ひます。

私がこの物語を読んで一番心に残ったこと
は、水島さんのしんぼう強さです。何度も目

の前にいる仲間の中に入っていきたかった事があると思います。この人の心の中では、まだ戦争がつづいているんじゃないかと思ひます。ビルマの中の日本兵を全員ほうむるまで、この人の心の中で残りつづけると思ひます。知っている人もいない国で生きていくのは大変なことかもしれません。でも、がんばって生きていってほしいと私は思ひます。

ゴミと自然と人間(校外清掃)

一年A組 村川理恵

歩けば歩くほど

ゴミの山

拾っても拾っても

なくならない

日ざしが、カンカンと容赦なく、照り続ける。今日は、海水欲にびつたりな天候だ。が、今から私達は、校外清掃に行くのだ。出発地点まで、各クラス男女四列で並び、行くのだが、もうまわりの人達は、グタツとしている。これも、暑い日ざしのせいだ。

「暑いね。」とSさんが一言つぶやいた。

「まあ、仕方ないよ。」と私は答えたが、自分もグタツとしていた。

出発地点に着き、いよいよ班ごとの清掃開始だ。私達の班は、二コースだ。さっそく、はりきってコースに入ったものの、思ったよ

り、ゴミが少なかつた。ほとんど、タバコや紙くずだつた。

「少ないね。」と私が言うと、Tさんが、

「こんなもんじゃない。」と言つた。その後、ビンなどが見つかつた。黒い大きなゴミ袋で燃えるゴミを集めていたが、中はほとんどが空気で、スカスカしていた。そこに日くんがゴミ箱に入っているかさを見つけた。私は、遠くから見たのでよくわからなかつたが、たぶん、まだ使えそうなかさだつた。

「もったいない。まだ、なんとかすれば使えそうなのに。」

あの捨てられたかさが、さみしくみえた。人間は、いつもいつも、『こわれたら買えばいい。こわれた物は捨てればいい。』という考え方をするから、『自然』と『人間』関係のバランスが、くずれてしまうのだ。人間は自然がないと生きていけない。だからこそ、日頃お世話になっている『自然』をできるだけ、助けてあげなきゃいけない。でも人間は、『自然』をこわす手伝いをしている。いや、手伝いではない。自から、こわそうとしてゐる。このときばかりは、どんな技術をもつていても、『人間って情けない。みんな同じ命なのに。』と思うしかない。

「人間はきっと知らない。人間は、自然あつ

てこそ人間だ。」

「どうゴミの方は？」と私がSさんに向け寄りながら言つた。

「あつ、全然たまつてないよ。」と言つて、Sさんが袋の口を開いてみせた。

「今日の収穫は百パーセントのうち、五パーセントぐらだね。」

「そうだね。」Sさんがそう言つて、うなづいた。遠くからTさんが、

「早く／＼」と叫ぶ声がきこえた。すると、Sさんがいきなり全力で走り始めた。私も追いかけるように、走つた。

涼しい風が、静かに吹いていた。



俳句(三年)

桜前線の気配を伝える波

桃色に花の芽色づく五稜郭

桜散る風に吹かれて空に舞う

桜花人歩く道落ちにけり

夜桜や夜風にあたり咲き乱れ

向日葵と童たのしも背くらべ

ひまわりや家々見下ろしまぶしく光る

山々が緑に染まる夏の風

桜咲き風情あふれる五稜郭

校庭の花もにぎわう暖かさ

花見酒桜したたり情緒あり

美濃谷 隆

島谷 好恵

松行 麻里

澤谷 啓行

友田 聡史

岡 美里

東 静香

野口 賀代

山本 千鶴

東谷麻祐子

石黒 大貴

暑い夏虫たちの声響き合う

海が鳴く嵐の夜は傍にいて

窓越しに降り注ぐ雪冬近し

雪をかき青芽を探す牧場の馬

一夜にて積もる白雪銀世界

雪景色心がはずむ美しさ

鶯や早春来れば声響く

風が吹きたなびきなびく春がすみ

花散るや静かな沼に落ちにけり

せみたちの一週間きりのオーケストラ

山の奥から流れ出す冷水見て迷い出す

散歩道心なごます紅葉かな

なごり雪桜のつばみ震えてる

長内あゆみ

三橋 奈々

船山 裕美

佐藤 祥一

大澤 高陽

八重樫 望

森野 通子

佐藤 裕介

長谷川孝治

北山 大

井端 恵

松村麻衣子

高橋 克和

たんばが静かに笑う春のとき

雨降って花が散る散る春の木々

春の道どこまで言っても花畑

のどかなる光りに誘われ芽吹く梅

花開き夏の訪れ知らせてる

街路樹の緑が光る初夏の朝

海水の潮の香りに招待され

水たまり映え空にはうろこ雲

火花散る松島夜空に水面に

北風がもたらす雪でこの街も染まる

藤山あや子

山崎 修司

石井 亮宇

横山 友紀

大野まり子

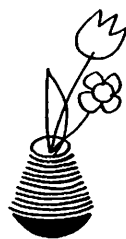
黒嶋 宏美

葛西 彩樹

市島加奈子

小笠原 愛

上田 泰史



短歌（二年）

風雪に吹かれかじかむ手作業に五稜の星は光輝く

佐藤 孝正

沖繩の米軍基地にこだまする住民たちの怒りの叫び

千葉 裕樹

学歴で人が見られる世の中は何かをきっと忘れているはず

政守 隆介

寒い夜私の心躍らせる冬を色どるイルミネーション

金子めぐみ

昨年はいろいろあって今年こそ平和な年でありますように

白石 真理

街の中パンフレットを配ってももらってくれない人の冷たさ

宮腰 寛之

星空と街のあかりをまちがえて雪を届けるサンタクロース

石塚 香理

初もうで願いあらたに合わせた手今年は何がかなうだろうか

小川 香理

寒い冬新聞配ると手がごえあいさつされて心あったか

坂田 絵美

雪が降り歩く道のり遠くなる走れば転び歩けば遅刻

佐藤 祐佳

震災も一年たって落ちついてみんなの顔に笑顔が戻る

下田 倫子

あの日から一年たっても戻れないいつになったらもとの神戸に

宮田沙紀子

おおみそか親戚集う祖母の家時を忘れて話し合いたり

森 佳奈子

夜の海ではおに伝わる風あびて友と眺める冬の夜景を

佐々木康裕

悪夢の日大震災からはや一年今でも願う元に戻る日

塩谷 光広

初夢に富士が見たいと思いつつ目ざめてみると夢を忘れる

古田 陽亮

窓の外ふと見てみると雪景色赤いなかまどひときわめだつ

川股 恵

人々が震えあがった大震災忘れられないその日はまぢか

波間麻衣子

冬の道犬とはしゃぐ子供らの笑い声聞き寒さ忘れる

藤井 美夏

初もうで除夜の鐘の音聞きながら寺まで続く階段上がる

菅原 宙士

人々の夢と希望をのせながら宇宙へ飛び立つエンデバー号

北野 恵美

時流れ健康である幸福を多くの人にわかってほしい

久留利愛弓

大地震幸せうばい町うばいいつになったら返すのだろう

峰下 朋子

正月に電話が来るとおめでとうと見えぬ相手におじぎする母

渡辺 幹子

川柳

宿題の海におぼれて沈んでく

江口 敬子

災害は一年たっても傷いえぬ

木村 麻子

核実験やればやるほど地球泣く

鈴木 くみ

核爆弾時を超えて甦る

村川 理恵

お正月子供天国親地獄

橘 明子

大地震うちのナマズは役立たず

星澤 三奈

風と雪優雅にワルツを踊ってる

藤山なお子

年賀状プリントゴッコで手抜きする

原 瑞恵

吹雪にも負けてたまるかランニング

吉田 涼

お年玉厚みはあるが額はなく

土橋 真明

メダル数期待がつのるアトラクタ

横沢 篤

雪かきにしても次の日もとどおり

川村 航平

寒い夜凍結道路光ってる

国分 恵子

初めてのスノーボードで筋肉痛

樋本 彩佳

見つからないマフラー探して冬終わる

長谷川由香里

雪道は人も車も命がけ

藤島 奈々

最終日宿題かかえて筆走る

森山 裕香

お年玉貯金しすぎて金がない

輪島 朋香

核実験そんなにやって楽しいか

石塚 祥平

おみくじを引いてよかった大吉だ

木村 隼人

お年玉親は苦しみ子は笑顔

村田 直樹

ふとんからやっと出れたらストープへ

橋本 良太

初もうで成績上がれとみな願う

伊藤真莉絵

お年玉子供幸せ親不孝

岡田 裕美

宿題をやらずに遊んで今地獄

斉藤 恭子

政治家の党首めぐって票集め

高松麻衣子

年賀状まだかまだかと待ちぼうけ

田口三知代

宿題はやってもやっても終わらない

綱森 智子

初もうで五円投げて願いごと

中尾明日香

大地震一夜に神戸を飲み込んで

大塚 洋明

宝くじはずれた後はすぐ棄てる

奥山 活

エンデバー地球に夢をもってきた

榊 克博

大そうじ父はもっぱら口でやり

中村 亮太

被災者は心も家も仮の宿

美濃谷 誠

雪降って猫も寒がる外の風

木村 彩乃

大みそか今年の反省あと五分

信田 真希

お正月おもちといっしょにぶっくらこ

本間 奈美

平成七年度 教職員名簿

。校 長	近野 功	。教 頭	山岸 秀一	。教 諭	高橋 一也	村井 貞夫	吉田 安宏	岩崎 鶴好	松山 元彦	杉山 春吉	辰巳美恵子	笹谷 巖	吉田 孜	名古屋貞俊	森 豊子	。養 護
---------	------	---------	-------	---------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	------	---------

。教 諭	木村似久子	中谷 満	後藤 賢一	大村 俊幸	萩野 雅彦	田中 篤子	信田 博之	山口 哲也	内木 竜	成田 牧	三上のり子	熊倉 啓恵	坪田 正明	工藤 康博	熊谷 トシ	堀 俊邦	。日 直	。調 理	。用 務	。事 務
---------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	---------	---------	---------	---------



Ⅱ 編集後記 Ⅱ

皆さん、今年の生徒会誌「五稜」はいかがだったでしょうか。長い期間をかけて作ってきましたが、この「五稜」には、今年度の五稜中学校のすべて(?)がまつています。そして、この「五稜」は、僕達編集委員だけで作ったのではなく、全校の生徒が協力して作ったものだということを忘れないでほしいのです。「俺がかわってねえよ。」とか思う人がいると思いますが、例えば川柳・俳句・短歌などは、一般の生徒が書いたものの優秀作品を載せています。載らなかった人も参加したことになっています。みんなが協力してできたこの生徒会誌「五稜」は、本当に今年度のまとめです。これをバネにして、卒業生の人たちは、これからの高校・または社会生活、在校生の人たちは、来年度の学校生活のなかで、これを読んで、平成七年度の五稜中学校のことを思い出してくれば、これを中心としてすすめてきた僕たちにとって、とてもうれしいです。

最後に、これに協力してくれた委員の皆さん、先生方、そして生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

(編集委員副委員長 宮腰 寛之)



編集委員

〔三年〕

佐藤 裕介
佐藤 祥一
齊藤 敦子
倉嶋 千恵
山下 晴美
佃 有射
小林あゆみ

〔二年〕

宮腰 寛之
高田 幸昌
池田慎太郎
下田 倫子
亀井 美佳
三上 暁子
伊藤さやか
波間麻衣子
竹田 賢太
葛葉 洋平

〔一年〕

長谷 拓
野田有希子
中村 亮太
八木橋 章
佐藤 勇太
大塚 洋明

〈顧問〉

萩野 雅彦 先生
内木 竜 先生

〈写真〉

松山 元彦 先生
木村以久子 先生

〈表紙・指導〉

吉田 安宏 先生

平成七年度生徒会誌

「五 稜」第35号

発行日 平成八年三月十五日

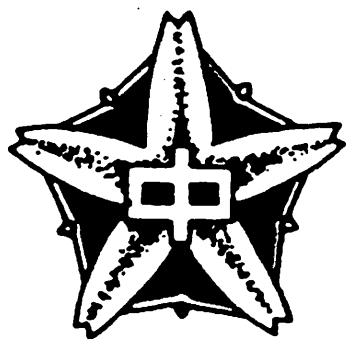
発行 函館市五稜中学校

生徒会

印刷 旬久保内印刷所

函館豊川町七―二六

電話(0136)221-2678



函館市立五稜中学校生徒会